

佐賀大学附属図書館
自己点検・評価報告書
平成 27 年度

平成 28 年 12 月

佐賀大学
学術研究協力部情報図書館課

目 次

I	附属図書館の目標・計画	1
II	附属図書館の概要	2
III	領域別評価	
1	教育支援	3
	(1) 資料の計画的収集	
	(2) 資料の提供・活用	
	(3) 情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）	
	(4) 学外図書館からの文献入手（図書館間相互貸借 ILL:Inter Library Loan）	
	(5) 読書奨励	
	(6) 自学自習環境の整備	
	(7) 広報	
	(8) 評価及び課題	
2	研究支援	11
	(1) 研究用資料の収集	
	(2) 電子ジャーナル	
	(3) 文献等データベース	
	(4) 研究情報・文献情報の電子化	
	(5) 評価及び課題	
3	社会貢献	14
	(1) 市民への情報サービス	
	(2) 公開講座（講演会、展示会）	
	(3) 地域資料の収集	
	(4) 貴重資料の利用	
	(5) 評価及び課題	
4	組織運営	17
	(1) 組織の編成・管理運営	
	(2) 財務	
	(3) 評価及び課題	
5	施設・設備	21
	(1) 施設、設備等の整備状況	
	(2) 施設、設備等の利用状況	
	(3) 評価及び課題	

I 附属図書館の目標・計画

【資料】第2期中期目標期間における部局の計画等

1 第2期中期目標期間（平成22年度～平成27年度）における目標及び計画

附属図書館は、本学の行う教育、研究に関わる学術情報を収集・蓄積し、効率的に提供する。同時に、学生が自発的に学習を行う場として、体系的かつ網羅的に図書館資料を収集し、情報ネットワークを整備して、より効果的な学習環境を提供する。さらに、本学の社会貢献のひとつとして、地域に開かれた生涯学習の活動を推進して行く。

（1）教育に関する目標・計画

【目標】

教養の形成、専門の学習及び自発的な学習を支援するため、体系的かつ網羅的に資料を収集し、情報ネットワークを整備して、より効果的な学習環境を提供する。（佐賀大学第2期中期計画項目13に該当）

【計画】

- 1) 学生用図書、シラバス指定図書等を計画的に収集し、提供する。
- 2) 電子図書館機能の一層の充実を図る。
- 3) 図書館月間、学生選書等の企画を通じて読書を奨励する。

（2）研究に関する目標・計画

【目標】

本学が国際的に高い研究水準を目指すための研究支援を充実強化する。

【計画】

学内で利用できる文献データベース、電子ジャーナルの適正維持を図る。

（3）社会貢献等に関する目標・計画

【目標】

附属図書館を地域に開かれた生涯学習の場として整備し、学術情報を提供する。

【計画】

- 1) 図書の貸出、講演会の実施等により、市民への情報サービスを一層充実させる。
- 2) 機関リポジトリシステムを使って、本学の教育研究活動等の成果を収集・蓄積し、広く学外に公開する。

II 附属図書館の概要

【資料】II-1 蔵書数、II-2 図書受入冊数、II-3 雑誌受入種類数

附属図書館は、文化教育学部、経済学部、理工学部、農学部がある本庄キャンパスに本館、医学部がある鍋島キャンパスに医学分館を配置する。

(1) 施設・設備

本館は、鉄筋4階建てで総面積5,332㎡である。ラーニング・コモンズ、閲覧室、閲覧個室、グループ学習室、マルチメディアコーナー等の利用者用スペースと、会議室、事務室等の管理スペース及び書庫等を有する。1階から3階が利用者用スペースとなっている。利用者用スペースには座席627席を備え、学内LANに接続された据え置き型パソコンを75台、及び情報コンセント等、ネットワークを利用した学習環境を整備し、学生及び研究者の学習、研究の能率向上を図るよう配慮している。

本庄キャンパスには本館建物の他に旧館書庫780㎡を有する。

医学分館は、鉄筋2階建てで総面積1,769㎡である。座席192席を備え、利用者用として学内LANに接続された据え置き型パソコン62台を配置するとともに、図書等の蔵書構成、配置等について十分に検討し、自学自習が効率よくできるよう配慮している。

両館とも設備・備品として、退館管理（BDS）システム、図書自動貸出返却装置、全館冷暖房設備、エレベータを備えている。

(2) 図書館資料

本庄キャンパスでは、図書（視聴覚資料を含む、以下同じ）は、教育研究組織・教育課程に即し、医学・看護学を除いたほぼ全分野にわたる資料598,843冊を所蔵している。このうち約40万冊を附属図書館本館に、約19万冊を研究室に所蔵する。

雑誌は、人文・社会・自然各分野にわたる国内外の学術雑誌、大学論集、紀要等合わせて9,516種類を所蔵する。また、附属図書館閲覧室に配架の学習用雑誌は、学術雑誌から就職に関わる受験雑誌等まで幅広く収集し、提供している。

医学分館では、図書は、医学・看護学を中心に117,878冊を所蔵している。内訳は、医学・看護学分野の専門図書78,956冊、一般教養図書39,292冊である。雑誌は、医学・看護学関連雑誌を中心に一般教養雑誌を含め約2,355種を所蔵している。図書・雑誌ともすべて開架書架に配架し、提供している。

また、全学で利用できる電子的資料として、文献等データベース13種及び、主要出版社の電子ジャーナルをはじめとして全12,045種の電子ジャーナル、18,930点の和書・洋書の電子書籍へのアクセスが可能となっている。

Ⅲ 領域別評価

1 教育支援

(1) 資料の計画的収集

【資料】Ⅱ-1 蔵書数、Ⅱ-2 図書受入冊数、Ⅱ-3 雑誌受入種類数、Ⅲ-1-2 電子書籍導入状況、Ⅲ-1-3 電子書籍アクセス数、Ⅲ-1-4 図書除籍冊数

本館

①資料費の確保

教育・学習支援を使命とする附属図書館では、学生用図書、電子情報資料等（以下、学生用資料）の資料費の確保は最も重要な課題の一つである。資料費は法人化直前の平成 15 年度に大学の経常経費として認定され、法人化後は図書館への基本予算として計上されている。

②学生用資料の選定と収集

学生用資料は、本学教員と図書館職員で構成する附属図書館選書専門委員会で購入計画を立案し、計画的に収集を行っている。

平成 21 年度に受審した機関別認証評価において「学生用図書の一層の充実が望まれる」と指摘されたことを受け、3 年間にわたる図書費の特別配分により整備を進めた。特別配分がなくなった今は、費用対効果の高い学生用図書の整備に努力している。また、平成 24 年度からは通常の学生用図書整備に加え、和図書の電子書籍の整備を行っている。平成 27 年度は 208 点を購入した。

③シラバス掲載参考書

学習用図書として特に重点的に収集を図る必要がある資料として、シラバスに掲載されている参考書がある。新年度当初にシラバス掲載参考書を利用できる状態にするには前年度内に資料を購入し整理しておく必要があり、教員、学務部の協力によるシラバスの早期登録、シラバス中の図書情報のシステムティックな抽出により実現している。

平成 27 年度は、参考書の指定があった全科目について発注し、218 冊購入した。

④学生希望図書

学生が図書館で読みたい図書をリクエストできる「学生希望図書制度」を Web システムで運用している。リクエストされた図書は館内で審議を経た後、購入する。図書館利用オリエンテーション等において「学生希望図書制度」について積極的に広報を行っており、平成 27 年度は 256 冊（後述する図書館サポーター学生（さらりーず）が選書した図書を含む。）のリクエストがあった。

⑤図書館サポーター学生（さらりーず）が選書した図書

平成 18 年度から、読書奨励企画として、本館及び医学分館の蔵書構築作業の一部に学生が参加できる図書館サポーター学生グループを組織し、「学生選書ツアー」を実施している。選書し購入した図書は、図書館入口に近い場所に特設コーナーを設置して配架している。図書館の中でも人気のコーナーになっており、貸出利用も多い。

⑥佐賀大学の年度計画実施に関連する図書の収集

平成 27 年度は、就職支援課と連携して就職活動のための資料を 106 冊、総合情報基盤センターと連携して情報セキュリティ・リテラシー教育に関する資料を 63 冊、男女共同参画推進室と連携して男女共同参画に関する資料を 49 冊整備した。

⑦電子書籍

平成 21 年度から電子書籍の整備を進めている。平成 24 年度からは学生の自学自習支援を整備方針の中心に据え、自宅等からの利用やラーニング・コモンズでの利用を考慮して、和書の辞書事典類、入門書等を中心にした整備を行っている。コンテンツを利用するための機器として、平成 24 年度にタブレット端末 (i-Pad) の整備を行い、平成 25 年度から貸出を行っている

平成 26 年度は利用促進のため、図書館 Web サイトに電子ブック専用ページを作成するとともに、和書の電子ブックの蔵書検索ができるように目録を整備するようにした。平成 26 年度の和書へのアクセス数は前年度より約 570 件増加したが、平成 27 年度は減少に転じた。

⑧資料の除籍

本館は平成元年の竣工以降、増築等を行っておらず、収蔵力の不足は深刻である。学生用図書 of 毎年の増加分及び研究室貸出図書の返却に伴い、書架に収蔵できない図書を箱詰めにして積み上げざるを得ず、教育・研究を支援する上でかなり支障をきたしている。

平成 23 年度に本館 2 階の書庫を集密書架へ改修し 2 階書庫の収蔵力を倍増させたが、箱詰図書の解消には至らず、以前として狭隘化の問題は残っている。

平成 20 年度に「佐賀大学附属図書館図書除籍要領」を改訂、平成 22 年度に除籍用の作業スペースを確保し、除籍作業の効率化を進めている。以後毎年計画的に除籍を進めており、平成 27 年度は 830 冊の除籍を行った。

医学分館

医学分館における研究用及び教育用の図書・雑誌の整備は、医学部教員で構成される医学分館運営委員会による体制をとっている。医学部のシラバスに掲載された参考書はすべて収集し、また医学部教員等から推薦された図書を委員会で選定し、計画的・系統的に収集している。

平成 23 年度に推薦方法の多様化について検討し、平成 24 年度から図書館作成の新刊リストによる推薦方法を開始した。平成 27 年度は 289 点の推薦があり、学生の自学自習用に広く利用されている。

また、医学・看護学という専門の性格上、常に最新版の資料を収集するよう留意し、所蔵する専門図書、参考書の改版・新版等を積極的に収集するとともに、改版等や年月の経過により利用価値を減じた図書を除籍し、書架の活性化に努めている。さらに、電子書籍の整備にも積極的に取り組んでいる。

(2) 資料の提供・活用

**【資料】Ⅲ-1-1 利用対象者数、Ⅲ-1-5 開館時間、Ⅲ-1-6 年間開館日数等、Ⅲ-1-7 入館者数
Ⅲ-1-8 貸出条件、Ⅲ-1-9 館外貸出状況**

1) 開館時間等

本館

①開館時間の拡大

平成 22 年度に学生の利用状況を勘案した開館時間の検討を行い、平成 22 年 6 月から平日の開館時間を 9 時から 8 時 40 分 (1 校時開始時刻の 10 分前) へ変更した。

平成 22 年度に実施した学部学生へのアンケート結果を基に、平成 24 年度から平日の開館時間を 8 時 30 分へ、授業期の閉館時間を 20 時 00 分から 21 時 10 分への延長、さらに月 1 回の定例休館日を原則として廃止した。(利用の少ない 2 月、3 月、8 月の第 4 木曜日は閉館)

②24 時間開館

申請を行った教員に限り、磁気カードによる入館方式により 24 時間何時でも図書館を利用できる。

③館内飲食

館内での飲食については一律禁止していたが、平成 21 年度から、長時間にわたる自学自習時の健康を考慮し、館内の特定の場所において以下のとおり試行している。

- ・許可する飲料物
密封できる蓋付き飲料物（ペットボトル、密封できるビン・カン類、水筒などの容器）
- ・飲用できる場所
閲覧席（飲用後はカバン類へ入れること）
以下の場所での飲用は厳禁
PC 席、視聴覚機器の席、書架・書庫、複写機コーナー、歩きながらの飲用
- ・飲み終わった容器は持ち帰ること

医学分館

①開館時間の拡大・変更

平成 22 年度に祝日開館、平日の開館時間を 9 時から 8 時 40 分への繰り上げ、平成 24 年度にはアンケート結果に基づき平日の開館時間を 8 時 40 分から 8 時 30 分へ繰り上げた。

平成 25 年度に 24 時間開館を停止し、平成 26 年度から朝 6 時から 8 時 30 分までの早朝開館を試行している。

②24 時間開館

磁気カードによる入館方式により、医学部所属のすべての学生と申請を行った医学部の教職員は土曜日・日曜日・祝日の閉館後を除き 24 時間何時でも図書館利用ができるが、平成 25 年度に利用学生による図書館マナー違反が多発し、防犯上・危機管理の点からの判断も加え、平成 25 年度末から 24 時間開館を停止している。

③館内飲食

平成 21 年度から本館と同条件で館内での飲食可を試行している。

2) 貸出条件等

本館

平成 22 年度に学部学生等の貸出可能冊数を 5 冊から 10 冊への増冊、平成 23 年度にシラバス掲載参考書の貸出期間を 3 日間から 1 週間への延長及び延滞時の罰則緩和、平成 26 年度に雑誌の貸出期間を 1 週間への変更を行った。

医学分館

平成 22 年度に、学内利用者の図書の貸出冊数を 3 冊から 5 冊に増冊した。シラバス掲載指定図書の貸出期間を 1 日から 3 日に、視聴覚資料の貸出期間を 1 日から 3 日に延長した。

平成 23 年度に、延滞時の罰則運用を緩和した。

その他本館、医学分館間でのサービス面で、利用者からのニーズに対応し、他キャンパス（本庄キャンパスから見た場合、鍋島キャンパス）の図書館に所蔵している図書の貸出・返却手続きを、平成 23 年度に図書の所蔵館に出向かないで返却ができるようにし、平成 26 年度には蔵書検索システムの図書取寄せ機能により、利用者が所属するキャンパスの図書館に取寄せられるよう改善した。

3) 入館者数・貸出冊数

本館

入館者数は平成 21 年度の 32 万 4 千人をピークに増減を繰り返しており、平成 24 年度以降は、30 万人前後を維持している。平成 27 年度は、改修工事に伴う臨時休館により開館日数が少ないために減少している。

減少傾向にあった館外貸出冊数は平成 21 年度から増加に転じ、平成 25 年度までは増加傾向にあったが、平成 26 年度以降は減少に転じている。

医学分館

平成 20 年度からの「鍋島キャンパス冷暖房細則」に基づいた空調運転時間の制限により夏場を中心に学生の入館利用が大きく落ち込んだが、利用者からのクレーム等に対応して平成 22 年度から空調運転を 21 時まで延長した結果、入館者数は前年度を上回る傾向が続いていたが、24 時間無人開館を中止した年の翌 26 年度は入館者数が減少したが、平成 27 年度は早朝開館試行の効果で増加に転じた。

平成 21 年度に一旦落ち込んだ貸出冊数は 22 年度以降増減を繰り返していたが、平成 26 年度から増加傾向にある。

(3) 情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）

【資料】Ⅲ-1-10 オリエンテーション実績（本館）

本館

毎年 4 月中旬から 5 月末にかけて、授業担当教員の依頼により指定された授業の時間内に「図書館オリエンテーション」を行っている。初級コースと中級コースを用意しており、初級コースは基本的な図書館の利用案内と学生自身による図書館探検、中級コースは電子ジャーナルや文献データベース等の利用方法等の説明となっている。

医学分館

毎年 4 月、医学部の新入学生（医学科、看護科、編入生、大学院修士課程学生）と新採用看護職員（本学卒業生を除く）を対象に「図書館オリエンテーション」を行っている。新入生に対しては担当教員の協力により情報基礎演習などの授業時間を利用して行っている。大学院博士課程の学生を除いてほぼ全員が受講している。

(4) 学外図書館からの文献入手（図書館間相互貸借 ILL : Inter Library Loan）

【資料】Ⅲ-1-11 図書館間相互貸借冊数、Ⅲ-1-12 図書館間の文献複写件数

本学は国立情報学研究所の NACSIS-ILL システムを利用しているが、同システムの報告では国立大学全体で利用件数が減少している。これは各国立大学が電子ジャーナルをパッケージ導入したために、各大学で読むことのできるタイトル数が飛躍的に増えたことによる影響と考えられる。本学においても、文献複写や図書の貸借件数が依頼、受託とも減少傾向にある。

しかしながら、処理件数の減少は業務量の減少には直結していない。世界的な発表文献数の増加も手伝い、入手の難しい文献についての取り寄せ依頼の割合が増えているからである。

(5) 読書奨励

1) 読書奨励企画

『2011年版大学ランキング』（朝日新聞出版 2010）において本学は学生一人当たりの年間貸出冊数が3.9冊で、国立の同規模総合大学47大学中47位となっており、1冊も図書を借りたことがない学生が全体の半数を超えていた。

この状況を改善するため、平成22年度から学生の読書力向上プロジェクトを立ち上げ、新刊図書の分野別重点整備、開館時間の延長、貸出条件の緩和、学生選書の推進、書架の増設、配架の工夫、古くなった図書の除籍の推進等の施策を行った。その結果、学生一人当たりの貸出冊数が増加に転じ、『2014年版大学ランキング』（2013）では図書館評価がBランクにアップし、平成24年度には図書を借りる学生の割合が50%を超えた。

2) 図書館サポーター学生（さらりーず）の活動

平成18年度から、学生選書委員の学生を公募し、選書を中心とした読書奨励の活動を行ってきた。平成27年度には、名称を「学生選書委員」から「図書館サポーター」へ変更し、従来の選書活動を継続しつつ、読書奨励を目的とした図書館活動の企画・実行した。

3) ライブラリーラバーズ（Library Lovers' キャンペーン）の活動

平成22年が国民読書年に指定されたことから、大学図書館も学生にその存在を再認識してもらい、図書館利用の促進、来館者数増加を図ることを目的として、平成22年度から九州地区の各大学図書館の若手職員が中心となり、キャンペーン活動を行っている。

平成27年度は、九州地区大学合同企画「ブックレシピ - 本を料理しろ。」に参加し、本のおすすめコメントを集めた。また、本学のオリジナル企画として、図書館サポーター学生の企画によるイラストコンテストを実施した。

(6) 自学自習環境の整備

【資料】Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力、Ⅲ-5-2 図書館利用者用端末台数
Ⅲ-5-3 アクティブ・ラーニング・スペース、Ⅲ-5-4 グループ学習室の設備

本館

利用者の多様な学習スタイルに対応するため、グループ学習室5室、閲覧個室4室、マルチメディアコーナーを設置している。また、総合情報基盤センター内演習室のパソコンと同じ環境で利用できる利用者用パソコンを75台設置している。

近年の学習環境の整備事項としては、平成23・24年度の老朽化した閲覧室の椅子約150脚の入れ替え、平成24・25年度の夏季の暑さ対策としての扇風機整備があげられる。

さらに平成25年度には、翌年度からのアクティブ・ラーニング方式を取り入れた大学教育の本格開始に先立ち、学生の授業時間外におけるグループワーク等を支援するため自習室に可動式の机と椅子を整備してラーニング・コモンズに一部リニューアルを行った。この整備は、同年に来館学生を対象として実施した図書館の学習環境についての重要度・満足度アンケート調査での改善優先項目（私語、座席数など）の改善にも寄与する結果となった。

平成26年度には、マルチメディアルームをアクティブ・ラーニングが可能となるように改修し、授業での予約利用もできるようにした。3月にはラーニング・コモンズのほとんどのパソコンを移動させ、可動式の机と椅子を追加整備して座席数を40席から70席へ増加した。

平成27年度には、図書館、教員、教員からの推薦や公募により参画した学生をメンバーとする図書館改修ワーキンググループによって自学自習環境整備の検討を重ね、1階フロアのほぼ全面をアクティブ・ラーニングが可能な空間へ改修し、ラーニング・コモンズの整備を行った。2階と3階は静かに学習ができる空間とし、学生の多様な学習スタイルに対応できるように整備した。

また、学生の図書館に対する重要度・満足度アンケート調査も行った。

資料配架の点では、平成 24 年度に利用者の声を受け、貸出利用の多い語学学習用図書を専用コーナーを設置して配架する改善を行った。

医学分館

医学分館でも利用者の多様な学習スタイルに対応するため、ビデオ・スライド室 2 室、LL 室を設置している。

平成 20 年度から「鍋島キャンパス冷暖房細則」に基づいた空調運転を行っていたが、平成 22 年度から夏季の夜間の冷房運転を 4 時間延長して 21 時までとした。さらに空調停止後の対策として、平成 22 年度に閲覧室に大型扇風機を 3 台増設した。平成 24 年度に 18 席の増加を行った。

平成 25 年度に 1 階の新聞雑誌室を多目的学習室とし、可動式の机・椅子を 12 席揃え、ラーニング・コモンズとして活用できるよう改修を行った。

平成 26 年 3 月に館内設置の利用者用パソコンを 10 台増設し、合計 62 台とした。

(7) 広報

【資料】Ⅲ-1-13 図書館 Web ページのアクセス数

1) Web サイト

図書館 Web サイトを開設して、図書館利用に関する各種案内、利用者用オンライン蔵書目録 (OPAC : Online Public Access Catalog) 等のサービスを行っている。

Web サイトは平成 23 年度に外部委託して、ホームページ作成言語の知識がなくてもコンテンツを更新できるよう CMS (Content Management System) を使用したものにリニューアルした。また、サイトの利用状況を把握し改善に役立てられるようにアクセス解析の仕組みを取り入れた。

平成 26 年度には学生の自学自習を支援するため、「資料情報の探し方ガイド」のページについて見直しを行い、コンテンツとナビゲーションの改修を行った。

図書館 Web サイトへのアクセスは、平成 26 年度はやや減少した。デバイス毎のアクセス割合では、PC 以外からのアクセスが年々増加しており、平成 27 年度は全体の 29% を占めている。

2) 広報誌

学生向けの情報、利用統計、各種報告、図書館の活動報告等の広報・記録媒体として図書館報「ひかり野」を年 1 回刊行していたが、平成 21 年度から学生をターゲットにした情報を抜き出して新たな情報誌「さらり」として独立させて発行を続けている。

3) 図書館 ML 通信

講演会の開催案内、データベース・トライアルの案内、臨時休館等、図書館サービスの案内を学内教職員全員にタイムリーに電子メールで配信する「図書館 ML 通信」を発行している。平成 27 年度は 117 号から 122 号を配信した。

4) マスメディアの利用

市民に対する図書館利用の広報活動として、附属図書館の様々な企画について地元メディアを中心に掲載・放送を要請するとともに取材を積極的に受け入れている。

5) マスコットキャラクター

利用者に図書館を身近に感じてもらうことを目的に、佐賀大学内に生息する野鳥であるカササギをモチーフに作成したキャラクター（「らいぶくん」と「らりいちゃん」）を制作した。利用者に配布する情報誌「さらり」、葉やブックカバーにプリントされるかたちで活躍している。

6) ツイッター

平成 24 年 1 月から、新刊本の入荷情報、資料の配架案内などの情報を発信している。

(8) 評価及び課題

1) 評価する点

・資料の計画的収集

教員及び図書館職員による選書専門委員会と、学生による選書が両輪となって蔵書構築を進めており、優れた収集体制として判断できる。

シラバス掲載参考書は講義の始まる年度の初めには書架に並べられ、全点が利用可能な状況に整備されており、優れた取組であると判断できる。

学生用図書の利用のため、平成 22 年度から平成 23 年度に図書整備特別予算を獲得して重点整備を行うとともに、古くなった図書の除籍を進めることにより書架の活性化を図り、利用効率を高めたことは高く評価できる。

・電子書籍

自宅等からの利用やラーニング・コモンズでの利用を意識して、学部学生向けに和図書を中心に電子ブックの整備を行っていることは評価できる。またコンテンツの整備だけでなく、利用するための機器としてタブレット端末(i-Pad)の整備を行い、貸出を行っていることは評価できる。平成 26 年度の積極的な広報やアクセスの利便性を図ったこと、和書の利用が増加したことは評価できる。

・資料の提供・活用

利用状況やアンケート調査結果を基に開館時間の拡大や貸出条件の緩和等の改善を行うとともに、長時間滞在する利用者のために飲食制限を緩和して自学自習環境の充実を図っていることは、利用環境向上の取組として優れていると判断できる。

また、23 年度と 26 年度に実施した、本館（医学分館）間での図書の貸出返却手続きの利便性向上策は、利用者ニーズに対応したという意味で高く評価できる。

・情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）

教員と連携して授業時間を使用して実施している図書館オリエンテーションは、受講率も高く、優れた取組と判断できる。

・読書奨励

国立の同規模総合大学中最下位であった学生一人当たりの貸出冊数を、図書館の総力を挙げて大きく引き上げたことは高く評価できる。中でも、図書館サポーター学生による選書は他の学生の注目度も高く、図書利用度の向上につながっており、優れた取組を実施していると判断できる。

・自学自習環境の整備

利用者用端末数は同規模大学の平均より多く、グループ学習室など多様な学習に対応する施設も整備しており、自学自習環境として高く評価できる。

平成25年度に行った本館・医学分館のラーニング・コモンズの整備は、アクティブ・ラーニング方式を取り入れた大学教育へのタイムリーな支援策として評価できる。また、学生の図書館学習環境の評価指標として重要度・満足度の概念を取り入れ、統計学的手法により改善優先度等を可視化したことも評価できる。

平成27年度に、図書館、教員、教員からの推薦や公募により参画した学生をメンバーとする図書館改修ワーキンググループによって自学自習環境整備の検討を重ね、館内を学生の多様な学習スタイルに対応できるように整備したことは評価できる。

また、平成25年度に引き続き、平成27年度にも学生の重要度・満足度アンケート調査を行

い、学習環境の改善効果を検証したことも評価できる。

・ 広報

広報誌の在り方を見直し、学生向けの情報を抜き出して新たな情報誌を刊行していることは高く評価できる。また、マスコットキャラクターを活用して図書館の活動をより効果的に学内外へ周知する工夫を行っていることは、広報の認知度を高める取り組みとして評価できる。

平成 23 年度に実施した Web ページの見直しの際、新しい管理技術 CMS を導入して容易にかつタイムリーに情報を更新できるようにした点は評価できる。

2) 課題

・ 資料の計画的収集

大学予算が削減される中、経費の継続的・安定的な確保が課題である。また、機関別認証評価において、「学生用図書の一層の充実が望まれる」と指摘された点、平成 22 年 10 月に学部学生全員を対象にしたアンケートの調査結果から、学生の図書館資料へのニーズの的確な把握と費用対効果の高い資料選定が必要である。

・ 電子書籍

学生の授業時間外の学習時間不足が指摘される中、図書館に足を運ばなくても資料の利用が可能となるため、貸出禁止の辞書辞典類、シラバス掲載図書等について計画的な整備を行う必要がある。

一方、利用は順調に伸びているとは言えない。整備充実を図るとともに学生への周知や利用促進のための策を強化する必要がある。

・ 情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）

図書館オリエンテーションは、本館では、授業時間内に 4 月・5 月の 2 か月にわたって実施しているため、担当職員の負担が重く、通常業務に影響を与えているため、授業カリキュラムへの組み入れなど、効率的に多くの学生が受講できる制度の検討が必要である。また内容面でも、現在行っている初級・中級コース以外にテーマ別の内容等で特化したオリエンテーションを実施していく必要がある。

・ 読書奨励

学生一人当たりの貸出冊数が平成 26 年度に伸びが止まった。平成 25 年度末の 6.9 冊は国立の同規模総合大学の平均 9.4 冊にはほど遠く、新たな読書奨励策を行っていく必要がある。また、図書館サポーター学生の活動も「学生協働」という観点から新たな取組を展開する必要がある。

・ 自学自習環境の整備

学生のアクティブ・ラーニングを支援するラーニング・コモンズは整備できたが、その利活用について教員サイドと連携を図ることが必要である。

また、平成 25 年度、27 年度に実施した、学生の図書館に対する重要度・満足度調査を今後も定期的実施し、利用者ニーズ等を的確に把握していくことが必要である。

・ 図書館 Web ページ

PC 以外からのアクセスが増加しており、それぞれのデバイス毎に最適な表示ができるように改修を検討する必要がある。

・ 広報

広報対象を特化したものとして、学生向け情報誌「さらり」を新入生全員に配布しているが、認知度は高くない。また、ML 通信は教職員宛の電子メールによるメーリングリストであるが、学生あての電子メールによる広報が出来ていない。23 年度に開始したツイッターによる広報は有効な方法だと認識しているが、さらに認知度を高めていく必要がある。

研究支援

(1) 研究用資料の収集

図書、学術雑誌その他の教育研究上必要な資料は附属図書館長の管理下に置き、附属図書館、学部、センター等に配置している。

資料の有効利用のため、附属図書館では図書、学術雑誌、電子ジャーナル等すべての資料を包含した蔵書データベースを維持管理し、所蔵・配置等の最新情報を Web 上で公開して利用の便を図っている。

本庄キャンパスの図書配置割合は、附属図書館約 70%、部局等約 30%である。学術雑誌は、附属図書館に農学・理工系学術雑誌を集中的に配架し、利用に供している。一部の学部等では、学部や学科等の単位で図書資料室を置き、専門領域に関する図書・雑誌をはじめ国内外の大学論集・紀要等を収集配架している。

鍋島キャンパスでは、旧医科大学時代から全図書、全雑誌を医学分館に集中配架し、教員、学生・院生の研究及び教育に供している。

(2) 電子ジャーナル

【資料】Ⅲ-2-1 電子ジャーナル導入状況、Ⅲ-2-2 電子ジャーナルアクセス数

平成18年度からの電子ジャーナル導入経費は全額中央経費で負担、契約形態は総合型の電子オンライタイプとしたが、経費が高騰を続けていることから平成24年度に専門委員会を設置して平成25年度から平成27年度の措置について検討を行い、所要経費の一部を部局負担とすることとした。また経費節減のため、所要額の最も高いエルゼビア社電子ジャーナルの平成25年度から平成27年度までの3年契約を行った。

平成26年度から平成27年度にかけて専門委員会を設置して平成28年度から平成29年度の契約について費用対効果の点から詳細な検討を行い、エルゼビア社電子ジャーナルの3年継続契約、ワイリー社電子ジャーナルの解約とその代替として非出版社系のエブスコ社電子ジャーナルの採用等を決めた。

また電子ジャーナル利用の利便性を高めるため、大学への予算要求による買取り制の電子ジャーナルバックファイルの整備や図書館システム内での電子ジャーナル文献へのナビゲーションツール（リンクリゾルバ）を導入している。

(3) 文献等データベース

【資料】Ⅲ-2-3 文献等データベースサービス

Ⅲ-2-4 文献等データベースのトライアル及び説明会開催状況

文献等データベースは電子ジャーナルとともに大学の教育・研究において必須であるため、以下のようなサービスの拡大を行ってきた。

平成22年度にエブスコ社「アカデミック・サーチ・プレミア」のサービスを開始、平成23年度には医学・看護学系の日本語データベース「メディカルオンライン」のサービスを開始した。

利用者から導入を望む声の強いエルゼビア社「スコープス」については、トライアル、学部教授会説明会の実施、アンケート結果等から大学に整備を強く要望し、平成24年度からサービスを開始することができた。

また、データベースから電子ジャーナル文献へのナビゲーションツール（リンクリゾルバ）を導入し、連携利用の利便性を高めている。

(4) 研究情報・文献情報の電子化

【資料】 Ⅲ-2-5 佐賀大学機関リポジトリ登録数及び閲覧数

「佐賀大学機関リポジトリ」は、本学総合情報基盤センターと連携して運用を行ってきた「電子図書館システム」のコンテンツを移行して平成 20 年 3 月に正式公開を行った。

その後、搭載コンテンツの整理を行い、現在は紀要論文、博士論文を主として収集している。

平成 22 年度には、トップページの改修を行い、「紀要名」から紀要論文へ容易にアクセスできるようにした。平成 23 年度には国立情報学研究所の学術機関リポジトリポータルである JAIRO との連携を行った。

紀要論文は、登録時の著作権処理について各部局との交渉を進め、平成 27 年度現在 14 誌の掲載論文の包括許諾を得、刊行のたびに著作権処理をすることなく登録できている。

(5) 評価及び課題

1) 評価する点

・電子ジャーナル

2、3 年おきに全学的な組織である専門委員会を設置し、学内アンケート、利用状況調査、利用データ分析、他大学の状況調査等の結果に基づいて今後の整備方針を議論を尽くして検討していることは高く評価できる。

全国的に課題となっている経費の安定確保については、平成 25 年度から平成 27 年度の 3 年間、引き続き平成 28 年度から平成 29 年度の 2 年について、経費の一部を部局負担とすることの学内合意を取り付け、安定供給を維持できたことは評価できる。

平成 28 年度から平成 29 年度の契約において、費用対効果の点から非出版社系電子ジャーナルを候補として取り上げたことは評価できる。

・文献等データベース

図書館予算での導入が困難で長年大学予算での導入に取り組んできた「スコープス」を平成 24 年度に導入を実現したことは評価できる。また、継続導入について電子ジャーナルと同じ検討の場で検討できるようにし、平成 29 年度までの継続導入を確保したことも評価できる。

2) 課題

・電子ジャーナル

電子ジャーナルは大学の研究情報基盤として極めて重要であるが、非常に高額であるうえ毎年値上がり続けている。大学の予算が削減される中、経費確保が重要な課題となっている。平成 24 年度に経費の一部を部局負担とすることで経費の安定確保を実現したが、部局負担額にも限界がある。

事実、平成 28 年度からの契約についての検討時は、部局負担額を増やさないことを前提にした最も費用対効果の高いラインナップを選択した。平成 28 年度末頃から平成 30 年度以降について検討を行う予定であるが、さらに精緻な検討のための情報収集等が必要である。

・文献等データベース

平成 24 年度から電子ジャーナルと文献データベース「スコープス」をセットで導入できている。また、電子ジャーナルと文献データベースの連携利用のための文献ナビゲーションツール（リンクリゾルバ）も導入できている。電子ジャーナルの効率的な利用や費用対効果の高い利用のためには、3 者の継続導入が必要である。

また他のデータベースについても、アンケート調査、利用データ分析等により定期的にラインナップの再検討を行う必要がある。

・研究情報・文献情報の電子化

機関リポジトリの登録件数は、同規模国立大学と比較して、二次情報登録件数は多いが、一次情報が少ない。紀要論文、博士論文だけでなく学会誌論文や商業誌論文についても登録を進める必要がある。そのための著作権許諾等も含めた学内合意形成等を進める必要がある。

3 社会貢献

(1) 市民への情報サービス

【資料】Ⅲ-3-1 市民への貸出状況

1) 閲覧・貸出サービス

市民への閲覧サービスは、本館、分館ともに年齢制限や居住地制限なしで実施している。市民への資料貸出は、本館は平成 11 年 10 月から、分館は平成 15 年度から実施している。

ただし、分館での市民への貸出は専門教育関係資料は行わず、一般教育関係資料のみ行っている。運転免許証などにより住所確認ができれば、来館初日に資料を貸し出している。

市民への貸出冊数は着実に増加している。

2) 文献複写サービス

本館にはプリペイドカード式複写機及びコイン式複写機、分館にはコイン式複写機を導入しており、著作権の範囲内で複写サービスを行っている。

3) 検索サービス

本館では、一般市民も利用できるパソコンを 13 台設置しており、平成 20 年度および平成 25 年度に機種を更新を行った。医学分館では、館内設置のパソコン 2 台で蔵書検索や情報検索が利用できる。

本館、分館ともに利用者登録を行った方で利用申請される方にインターネットや電子ジャーナル等が利用できる ID を発行している。

4) 施設利用

本館では、資料の閲覧・貸出、文献複写サービス、検索サービスに加え、学生教職員の利用に支障のない範囲でグループ学習室も利用できるようにしている。

5) 佐賀県内図書館との相互貸借システム

本館・医学分館ともに公共図書館等からの依頼に応じ、文献複写・図書貸借サービスを行っている。医学分館は近隣の病院図書室等からの依頼にも応じている。

本学は県内の大学及び公共図書館間での相互貸借協定の制定に深く関与した。平成 19 年 1 月 1 日から協定に基づき、最寄りの大学または公共図書館を窓口に関内各所の図書館の蔵書が利用できるようになってきている。現在、公共図書館 50 館・室、大学図書館 6 館・室が協定に参加している。

6) 佐賀県内図書館横断検索システム

平成 17 年に稼動した佐賀県内図書館横断検索システムに参加して、県内の図書館と一体となった地域への蔵書検索サービスの提供を行っている。佐賀県内図書館横断システムは、佐賀県立図書館、県内の市町村立図書館及び県内の大学図書館を対象に、横断的に各館が所蔵している図書の検索を可能にしたシステムであり、現在公共図書館 38 館と大学図書館 5 館が参加している。

(2) 公開講座(講演会、展示会)

【資料】Ⅲ-3-2 図書館月間 講演会 Ⅲ-3-3 図書館月間展示会

附属図書館では、市民に生涯学習の場を提供することを主目的として、毎年 11 月を「図書館月間」と称して、平成 13 年度から講演会、貴重資料展示等を行っている。

市民への広報は、マスコミへの情報提供、県内の公共図書館やテーマに合致する関係機関等へのポスター貼付・チラシ配布による案内の依頼、過去の講演会参加者への案内文書の送付等で行っている。

平成 27 年度は、参加者に対しニーズ調査等のアンケートを実施した。

1) 講演会

平成27年度は、「幕末・明治期における佐賀の電信文化」をテーマに、佐賀大学名誉教授長野暹氏による「佐賀藩と電信機」、と題した講演会及び幕末佐賀研究会会員多久島澄子氏による「日本電信の祖 石丸安世」と題した講演会を開催した。

2) 資料展示

テーマに沿った「幕末佐賀藩の科学技術」に関する資料を館内展示した。

(3) 地域資料の収集

【資料】Ⅲ-3-4 附属図書館所蔵コレクション

法人化後の地域資料の大規模収集として、岡本悟名誉教授から受贈した寄付金（岡本基金）による「洋学資料コレクション」と「大内文庫」の購入があげられる。

一方、地域学歴史文化研究センターや総合情報基盤センターと連携しながら、小城鍋島文庫資料（日記目録）や市場直次郎コレクション（扇面、大津絵節）の電子化、目録作成（和書、短冊、書巻等）を進めている。また、保存用桐箱の購入等、資料保存環境を整備した。

(4) 貴重資料の利用

【資料】Ⅲ-3-5 貴重資料の利用

毎年、本学地域学歴史文化研究センターと佐賀県小城市教育委員会の共催で開催される企画展等に貴重資料を貸し出している。

平成 23 年度には、佐賀県鹿島市教育委員会と「小城鍋島文庫のデジタル閲覧に関する協定書」を締結し、鹿島市教育委員会が小城鍋島文庫のデジタル画像を活用できるようにした。

平成 27 年度は、以下のとおり貴重資料の提供を行った。

- ・地域学歴史文化研究センター主催の展示会「小城鍋島藩と島原の乱」に小城鍋島文庫の資料を貸し出した。
- ・地域学歴史文化研究センター主催の展示会「小城祇園祭一千葉・鍋島から現代へ」に小城鍋島文庫と市場直次郎コレクションの資料を貸し出した。
- ・佐賀大学美術館で開催された「花鳥風月に遊ぶ一近世の絵師と歌人」に市場直次郎コレクションの資料を貸し出した。

(5) 評価及び課題

1) 評価する点

・市民への情報サービス

市民の利用に便宜を図っていることは高く評価できる。また、『佐賀県公共図書館と佐賀県大学図書館間の相互貸借規程』の制定に関与したこと、県内図書館間の相互貸借システムや横断検索システムに参画していることも地域に密着した大学図書館としての自覚があると判断できる。

・ **公開講座(セミナー、講演会、展示会)**

「図書館月間」を継続的に開催しており、社会連携・社会貢献活動としての取組を実施していると判断できる。平成 27 年度に、改善目的のニーズ調査等のアンケートを実施したことも評価できる。

・ **貴重資料の利用**

毎年学内外の組織等が開催する展示会等へ貴重資料を貸出しており、資料の利活用、地域連携・地域貢献としての取組を実施していると判断できる。

2) 課題

・ **公開講座(セミナー、講演会、展示会)**

市民の生涯学習の場として「図書館月間」を毎年実施しているが、惰性となってきた嫌いがある。参加者アンケート結果への対応が必要である。

・ **貴重資料の利用**

所蔵コレクションの利活用を進めるため、地域学歴史文化研究センター等、学内外の研究施設・研究機関等へ協力を仰ぎ、貴重資料についての識見を持つ職員育成の努力が必要である。

4 組織運営

(1) 組織の編成・管理運営

【資料】Ⅲ-4-1 附属図書館組織・機構図

1) 館長・副館長

佐賀大学は、平成 15 年 10 月に旧佐賀大学と旧佐賀医科大学が統合し、新佐賀大学となった。附属図書館は、平成 18 年 4 月に現在の館長、副館長制で諸般の課題解決に当たることとした。

図書館長は、附属図書館の業務を掌理し、附属図書館に設置した各種委員会の委員長として審議の取り纏めを行うとともに、学内の教育研究評議会等の委員として大学の管理運営に参画している。

2) 運営委員会

①附属図書館運営委員会

平成 16 年 4 月の法人化後、佐賀大学図書館規則第 5 条第 2 項の規定に基づき、佐賀大学附属図書館運営委員会を設置した。医学分館には、佐賀大学図書館規則第 6 条第 5 項に基づき附属図書館医学分館運営委員会を設置した。

佐賀大学附属図書館運営委員会は、附属図書館の運営方針、諸規程の制定・改廃、予算等に関する重要事項を審議する組織で、附属図書館長（委員長）、副館長、及び各学部から選出された教員 5 人、総合情報基盤センター長、全学教育機構副機構長等で構成されている。

また、附属図書館運営委員会の下に、附属図書館運営委員会から付託された事項の審議を行う専門委員会を設置している。

②附属図書館医学分館運営委員会

附属図書館医学分館運営委員会は分館の運営、分館の諸規程の制定・改廃、分館の予算等に関する事項を審議する組織である。

3) 専門委員会

①選書専門委員会

選書専門委員会は蔵書整備、学生用図書収集、その他の図書館資料の選定収集に関することを掌る。

②貴重資料・地域貢献専門委員会

貴重資料・地域貢献専門委員会は、附属図書館所蔵の貴重資料の保存・公開・展示等及び附属図書館の地域貢献事業に関することを掌る。

③評価専門委員会(平成 18 年～)

自己点検評価報告書の作成及び外部評価の実施体制を整備した。

④電子ジャーナル専門委員会

第1期：平成16年11月～平成18年2月14日 第2期：平成20年 5月～平成21年3月31日
第3期：平成24年 4月～平成24年8月27日 第4期：平成26年12月～平成27年7月

必要な時に設置している。

次期電子ジャーナル及び文献データベースの契約内容、経費負担の在り方に関することを掌る。平成 28 年度末頃から、第 5 期委員会の設置が予定されている。

4) 事務組織

【資料】Ⅲ-4-1 附属図書館組織・機構図 ①②③ Ⅲ-4-2 附属図書館職員数

平成16年4月から資料Ⅲ-4-1 ①のような係構成となり、常勤職員14人、非常勤職員10人、総勢24人となった。

法人化以降、運営費交付金は毎年1%の効率化係数を課せられ、人件費等管理運営経費の抑制及び効率的な大学運営を迫られていることから、平成18年7月に事務組織再編を行った（資料Ⅲ-4-1 ②）。

平成25年度には平成18年度の事務組織再編による人員配置により生じた各担当の業務量を是正するため人員配置の変更を行った。（資料Ⅲ-4-1 ③）。

5) 事務処理の効率化

研究用資料の購入依頼受付を Web ベースのシステムで行い図書館システムにデータとして取り込み、購入依頼受付から発注処理、発注状況の管理等を合理化している。また研究用資料の購入依頼時に必要となる財源の管理を、財務会計システムと図書館システムを連携させることにより効率化している。

また、学科推薦図書等一時期に大量発注する資料は、目録データ入力と図書 ID ラベル貼付等を済ませた状態で納品させて、図書館での整理業務の効率化と整理期間の迅速化を実現した。平成25年度から紀要雑誌について、本文が機関リポジトリ及び CiNii で公開されているものは保存しないこととし、書架の狭隘化への対応及び業務の削減を図った。-

6) 職員研修

【資料】Ⅲ-4-3 職員研修状況

全国規模の図書館職員研修に計画的に職員を派遣している。従来は常勤職員のみを受講対象としていたが、現在は非常勤職員にも参加機会を提供している。

また、新規採用職員については大学での研修が行われているが、平成21年以降、図書館独自でも新規採用職員研修を行っている。平成24年度も職員1名（及び非常勤職員1名）に対して実施した。

(2) 財務

1) 予算

【資料】Ⅲ-4-4 図書館経費 Ⅲ-4-5 図書館資料費

法人化後は毎年1%の予算減が行われており、業務効率化による人件費削減、資料購入時の契約方法の見直しによる値引き率の拡大、事務用品、光熱水量費等の節約など、学生用図書購入等に必要な資料費への影響を抑える努力をしている。

平成27年度の配当額は、一般運営経費79,297千円、学長経費(電子ジャーナル経費)50,000千円であった。電子ジャーナル購入経費は、学長経費のうちの「中期計画実行経費」から必要な額を確保するという学内合意に基づくものであったが、平成22年度から学長経費の上限が50,000千円と定められ、不足分は間接経費から補填されることとなり、27年度の電子ジャーナルの間接経費補填額は25,000千円であった。

本館

平成 27 年度の当初配分は、56,693 千円である。この中から図書館維持費として 36,516 千円、図書購入費として 20,177 千円を充てた。

医学分館

平成 27 年度の当初配分額は、22,604 千円である。この中から図書館維持費として 15,378 千円、図書購入費として 7,226 千円を充てた。

なお、医学分館は、法人化時の合意に基づき医学部及び附属病院からも別途図書購入費の配分を受けている。

2) 決算

【資料】Ⅲ-4-4 図書館経費 Ⅲ-4-5 図書館資料費

本館

図書館維持費のうち非常勤職員の人件費が 4 割程度を占め、不足する常勤職員の補助として非常勤職員に助けられている実情が反映されている。人件費以外では、光熱水量費をはじめとして今後も節水・省エネルギーへの協力を利用者へ呼びかける努力を継続していくこととしている。電気料金については、夏季には扇風機との併用により経費の抑制に努めている。また、空調機については環境省が制定したエコアクション 21 に関連し、省エネルギーな機種への更新が行なわれた。

保守費は、空調機、エレベータ、各種設備の維持経費、さらに建物・設備の老朽化により今後は増加が見込まれる。

医学分館

図書館維持経費のうち平成 18 年度以降、組織再編に伴う非常勤職員の異動等により人件費増が続いている。

光熱水量費等は、平成 20 年度からの鍋島キャンパス冷暖房細則の施行により空調機の運転時間を制限しているため減少していたが、平成 22 年度から土・日曜日に加え祝日も開館したことで、夏場における冷房運転を 17 時までから 21 時までに延長したことにより図書館維持費が増加している。

また、施設設備の修理に経費を要するようになってきており、今後の経費確保が課題である。

(3) 評価及び課題

2) 評価する点

・組織の編成・管理運営

運営委員会や専門委員会が整備され、各専門委員会がそれぞれの所掌ごとに機能しており、管理運営の体制として良好と判断できる。また、少ない職員数を補い業務効率の向上を図るために、組織再編を実施している。

研修については、専門職としての研修を始め、新人研修、接遇、会計等の基礎的研修等を計画的に実施している。

・財務

人件費を除く図書館維持費の中で、最も支出が多いのが電気料金である。電気料金を抑制するために扇風機を購入し、夏場の空調を扇風機を併用して抑制していることは評価できる。

2) 課題

・組織の編成・管理運営

職員数は定員内も定員外も同規模大学の平均より少ない。また、主任クラスとして中核となるべき若手職員がいない等の年齢構成上の問題がある。職員の育成と、新たなサービスや定常的に実施すべき業務に対応するための人員の適正配置が課題である。

研修については、「大学図書館職員長期研修」以外の、大学院教育や長期海外派遣等の長期間にわたる研修へ派遣、また県内図書館との交流の意味も含めた相互研修等が今後の課題である。

・財務

大学全体の予算減の中で、サービス水準維持と経費節減を如何に両立してゆくか、常に取り組みが問われる。今後は、施設の老朽化等で補修経費の増も予想される。

予算が毎年削減されつつある状況の中で、図書館維持費の節減に努めてはいるが、図書購入費の減額が避けられなくなり、平成 24 年度から図書館維持費と同率で予算減を行わざるを得なくなっている。予算の効果的な使用とともに、評価反映特別経費等の特別予算の確保が必要である。

電子ジャーナルと文献データベース経費の確保については、一層の学内的な働きかけが必要である。

5 施設・設備

(1) 施設、設備等の整備状況

1) 建物

**【資料】 Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力、Ⅲ-5-2 図書館利用者用端末台数
Ⅲ-5-3 アクティブ・ラーニング・スペース、Ⅲ-5-4 グループ学習室の設備**

図書館総面積は本館 5,332 m²、旧館 780 m²、医学分館 1,769 m² 合計 7,881 m²である。

閲覧座席数は本館 627 席、医学分館 192 席、合計 819 席である。本館（平成元年 3 月竣工）、医学分館（昭和 55 年 3 月竣工）とも竣工後建物及び設備の増築、大規模改修は行っていないが、本館、医学分館ともに書架スペース以外の閲覧スペースを利用しやすく、明るい場所に置くなど基本設計において利用者への配慮を行っている。

また、利用者に快適な環境を提供するため、夏季の冷房、冬季の暖房運転の維持と設備、物品の充実を図っている。また全館を徹底した清掃を行い、快適な学習環境を提供することに努めている。

学習のための設備については、p.7「教育支援（6）自学自習環境の整備」に記述した。

また、安全な利用環境を提供するため、本館、医学分館とも館内の要所に防犯カメラを設置している。防犯カメラは附属図書館運営委員会が定めた「佐賀大学附属図書館防犯カメラ運用内規」に基づいて運用している。

バリアフリー面では、本館・医学分館ともに車椅子対応ためのスロープ及びトイレを設置している。本館のトイレは平成 24 年度に改修を行った。エレベータについては、本館ではマルチビームドアセンサーの設置、医学分館でもマルチビームドアセンサーの設置と障害者対応への改修を行った。

さらに、日本語に不慣れな利用者のために、平成 20、21 年度に館内サインを全面的に見直し、日本語・英語併記に改め、一部にはピクトサインを採用した。

2) 書架・書庫

【資料】 Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力

本館・医学分館ともに全館開架方式を採用し、書架に隣接して閲覧席やグループ学習室を設置している。本館は平成元年の竣工以降、増築や大幅な書架の増設を行ってこなかったが、平成 23 年度に 2 階の書庫を集密書架へ改修して 2 階書庫の収容力を約 7 万冊に倍増させた。

医学分館は看護学科の新設に対応した増築などは行っておらず、2 階の集密書架にいたっては耐震機能も備えていなかったが、平成 23 年度に耐震機能を施すことができた。

本館、分館ともに収容力の不足は深刻である。本館では、毎年の図書増加分に伴い図書を箱詰めにして積み上げており、教育・研究を支援する上でかなり支障をきたしている。利用度の下がった図書を除籍して書架不足を凌いでいる。

(2) 施設、設備等の利用状況

【資料】 Ⅲ-5-5 各室使用状況（本館）、Ⅲ-5-6 会議室利用状況（本館）

1) 利用者用施設・設備

本館

グループ学習室・閲覧個室の利用は平成 25 年度まで増加傾向にあったが、平成 26 年度以降は減少している。

医学分館

ビデオ・スライド室 2 室、LL 室 5 ブースを設置し、利用者に提供している。試験期間は予約で一杯である。

2) その他の施設・設備

・会議室（本館 4 階）

本館の会議室は、本庄キャンパスのほぼ中心に位置し、収容人数が 60 人で使いやすい規模の部屋なため、学内の各種委員会等によく利用されている。平成 20 年度からは佐賀大学経済学部が開講する公開講座「みんなの大学」が 1 年間通じて利用しており、利用がさらに増加した。利用環境の向上のため、平成 24 年度に老朽化した机・イスを新しいものに入れ替えた。

(3) 評価及び課題

1) 評価する点

・施設、設備等の整備状況

図書館の総面積、座席数は全国と同規模大学平均を下回ってはいるが、本館・医学分館ともに施設設備の老朽化が進む中で、快適な学習環境を提供することに努めている。

学習のための設備については p.9「自学自習環境の整備」に記述した。

また安全な利用環境を提供するため、防犯カメラの整備を整備し、その運用規程を策定していることは評価できる。

・施設、設備等の利用状況

グループ学習室・閲覧個室の利用が減少しているが、他にグループ学習や個人学習が可能な空間を整備した結果と判断できる。

2) 課題

・施設、設備等の整備状況

本館・医学分館ともにエレベータの車椅子対応を行っているが、誘導用ブロックや音声案内等が未整備で視覚障害者の利用に配慮されていない。バリアフリー化の促進は図書館単独で実施するのではなく、大学として統一的に検討・実現すべき課題としてバリアフリー化の促進に取り組む必要がある。

また、本館、医学分館ともに竣工以来一度も増築を行っていないため、書庫の狭隘化は深刻な状況にある。そのうえ、今後教員の退職にともなう返却図書が多くあると見込まれ、狭隘化の解決は喫緊の課題である。引き続き書庫増設の経費要求とともに、印刷媒体資料等の電子媒体への移行や資料の廃棄を進め、狭隘の緩和を行う必要がある。

さらに、不審者の入館を制限して安全な利用環境を提供するという点、また学生のアクティブラーニング等の状況把握のための入館データ分析を可能にするという点で、多くの他大学図書館で整備を終えている「入館管理システム」の導入が不可欠である。

・施設、設備等の利用状況

毎年増加し続けていたグループ学習室の利用が平成 26 年度以降減少している。ラーニング・コモンズ整備の影響と思われるが、調査の必要がある。

資料

第2期中期目標期間における部局の計画等

重点事項
中期目標・中期計画
将来計画

平成23年3月
佐賀大 学

中期目標・中期計画一覧表

部局名 附属図書館

中期目標	中期計画	
(前文) 基本構想 附属図書館は、本学の行う教育、研究に関わる学術情報を収集・蓄積し、効率的に提供する。同時に、学生が自発的に学習を行う場として、体系的かつ網羅的に図書館資料を収集し、情報ネットワークを整備して、より効果的な学習環境を提供する。さらに、本学の社会貢献のひとつとして、地域に開かれた生涯学習の活動を推進して行く。		
I 教育研究等に関する目標	I 教育研究等に関する目標を達成するための計画	
1 教育に関する目標 教養の形成、専門の学習及び自発的な学習を支援するため、体系的かつ網羅的に資料を収集し、情報ネットワークを整備して、より効果的な学習環境を提供する。(佐賀大学中期計画13)	1 教育に関する目標を達成するための計画 1) 学生用図書、シラバス指定図書等を計画的に収集し、提供する。 2) 電子図書館機能の一層の充実を図る。 3) 図書館月間、学生選書等の企画を通じて読書を奨励する。	1 2 3
2 研究に関する目標 本学が国際的に高い研究水準を目指すための研究支援を充実強化する	2 研究に関する目標を達成するための計画 学内で利用できる文献データベース、電子ジャーナルの適正維持を図る。	4
3 社会貢献等に関する目標 附属図書館を地域に開かれた生涯学習の場として整備し、学術情報を提供する	3 社会貢献等に関する目標を達成するための計画 1) 図書の貸出、講演会の実施等により、市民への情報サービスを一層充実させる。 2) 機関リポジトリシステムを使って、本学の教育研究活動等の成果を収集・蓄積し、広く学外に公開する	5 6
4 その他の目標	4 その他の目標を達成するための計画	
II 組織の見直し、運営改善等に関する目標	II 組織見直し、運営改善等に関する目標を達成するための計画	
1 組織の見直しに関する目標	1 組織の見直しの方向性に関する計画	
2 運営改善等に関する目標	2 運営改善等の目標を達成するための計画	

II 概要

II-1 蔵書数

①図書

3月31日現在（単位：冊）

年度	本館			医学分館			合計
	和	洋	計	和	洋	計	
22	437,132	176,256	613,388	64,653	44,833	109,486	722,874
23	421,215	175,391	596,606	66,427	45,400	111,827	708,433
24	416,024	175,490	591,514	67,245	45,916	113,161	704,675
25	416,543	176,443	592,986	68,917	46,385	115,302	708,288
26	417,698	177,125	594,823	69,706	46,316	116,022	710,845
27	421,356	177,487	598,843	71,195	46,683	117,878	716,721

【参考】所蔵図書冊数（『平成27年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学	和図書(冊)	洋図書(冊)	点字(種)	計	一大学平均(冊)
A (8学部以上)	19	33,874,438	25,125,723	1,211	59,001,372	3,105,335
B (5~7学部)	16	10,086,745	4,364,958	268	14,451,971	903,248
C (2~4学部)	26	11,466,714	6,152,473	7,432	17,626,619	677,947
D (単科大学)	25	7,139,644	2,401,814	1,764	9,543,222	381,729

②雑誌

3月31日現在（単位：冊）

年度	本館			医学分館			合計
	和	洋	計	和	洋	計	
22	6,489	2,964	9,453	1,223	1,111	2,334	11,787
23	6,514	2,968	9,482	1,224	1,116	2,340	11,822
24	6,519	2,971	9,490	1,227	1,117	2,344	11,834
25	6,522	2,972	9,494	1,233	1,117	2,350	11,844
26	6,531	2,974	9,505	1,243	1,110	2,353	11,858
27	6,539	2,977	9,516	1,236	1,119	2,355	11,871

【参考】所蔵雑誌種類数（『平成27年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学	和雑誌(種)	洋雑誌(種)	点字(種)	計	一大学平均(種)
A (8学部以上)	19	628,099	468,940	0	1,097,039	57,739
B (5~7学部)	16	204,388	92,673	0	297,061	18,566
C (2~4学部)	26	193,194	104,381	4	297,579	11,445
D (単科大学)	25	117,480	43,681	2	161,163	6,447

③ 視聴覚資料

3月31日現在(単位：タイトル)

年度	本館	医学分館	計
22	1,557	1,910	3,467
23	1,715	2,007	3,722
24	1,529	1,711	3,240
25	1,787	1,713	3,500
26	1,788	1,748	3,536
27	1,788	1,766	3,554

【参考】視聴覚資料所蔵数 (『平成 27 年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

国立大学	大学数	全所蔵数 (タイトル)	1 大学平均(タイトル)
A (8 学部以上)	19	488,336	25,702
B (5～7 学部)	16	93,765	5,860
C (2～4 学部)	26	190,248	7,317
D (単科大学)	25	102,894	4,116

Ⅱ-2 図書受入冊数

単位：冊

年度	本館	医学分館	計
22	17,433	2,306	19,739
23	17,284	2,341	19,625
24	14,400	2,469	16,869
25	14,897	2,246	17,143
26	14,178	2,273	16,451
27	13,637	2,237	15,874

Ⅱ-3 雑誌受入種類数

単位：種

年度	本館	医学分館	計
22	3,718	689	4,407
23	3,715	690	4,405
24	3,663	694	4,357
25	3,336	475	3,811
26	3,234	487	3,721
27	3,205	473	3,678

Ⅲ 領域別評価

1 教育支援

Ⅲ-1-1 利用対象者数

単位：人

年度	学生	教職員	計
22	7,546	2,206	9,752
23	7,317	1,926	9,243
24	7,237	1,965	9,202
25	7,118	2,633	9,751
26	7,081	2,755	9,836
27	7,002	2,704	9,706

(出典) 図書館調査 (日本図書館協会)

Ⅲ-1-2 電子書籍導入状況

①購入パッケージ

年度	EBSCOhost Ebook collection	Maruzen e-book Library
24	○	○
25	○	○
26	○	○
27	○	○

②種類数

単位：タイトル

年度	国内	国外	計
24	765	17,251	18,016
25	888	17,268	18,156
26	1,093	17,272	18,365
27	1,658	17,272	18,930

【参考】所蔵電子書籍種類数 (『平成 27 年度学術情報基盤実態調査結果報告』) 単位：タイトル

国立大学	大学数	国内	国外	計	一大学平均		
					国内	国外	計
A (8 学部以上)	19	10,049	364,394	374,443	529	19,179	19,708
B (5~7 学部)	16	4,605	202,781	207,386	288	12,674	12,962
C (2~4 学部)	26	6,887	261,629	268,516	265	10,063	10,328
D (単科大学)	25	4,405	67,932	72,337	176	2,717	2,893

Ⅲ-1-3 電子書籍アクセス数

単位：件

年度	EBSCOhost Ebook collection	Maruzen e-book Library
24	50	—
25	434	370
26	627	748
27	313	585

Ⅲ-1-4 図書除籍冊数

単位：冊

年度	本館	医学分館	計
22	2,605	957	3,562
23	23,543	0	23,543
24	10,212	1,154	11,366
25	5,636	0	5,636
26	4,159	1,417	5,576
27	830	0	830

Ⅲ-1-5 開館時間

①本館

学 期	曜 日	開館時間	備 考
授業期 (試験期間 含む)	月～金曜日	8：30～21：10	(休館日) 2月、3月、8月の第4木曜日(祝日の 場合は開館する) 夏季一斉休業日 年末・年始
	土曜日	10：00～19：00	
	日曜日・祝日	10：00～19：00	
休業期 (授業期以 外)	月～金曜日	8：30～20：10	
	土曜日	10：00～19：00	
	日曜日・祝日	10：00～19：00	

②医学分館

学期	曜日	開館時間	備 考
授業期	月～木曜日	8：30～21：00	各季休業期の土・日曜日、および年末 年始は休館日。
	金曜日	8：30～21：00	
	土・日曜日	10：30～18：30	
各季休業期	月～木曜日	8：30～17：15	
	金曜日	8：30～17：15	
	土・日曜日	閉館	

Ⅲ-1-6 年間開館日数等

①本館

年度	開館日数(日)				開館時間数(時間)		
	平日	土曜	休日	計	時館内	時間外	計
22	229	48	63	340	1,892	1,703	3,595
23	238	49	61	348	2,023	1,904	3,927
24	234	49	60	343	1,989	1,887	3,876
25	234	49	61	344	1,989	1,896	3,885
26	235	47	62	344	1,997	1,896	3,893
27	215	44	60	319	1,828	1,767	3,595

②医学分館

年度	開館日数(日)				開館時間数(時間)		
	平日	土曜	休日	計	時館内	時間外	計
22	242	47	61	350	2,048	4,624	6,672
23	243	47	58	348	2,037	4,535	6,572
24	241	46	60	347	2,019	4,513	6,532
25	241	45	57	343	2,008	4,470	6,478
26	244	45	56	345	2,074	1,784	3,858
27	242	46	61	349	2,048	1,824	3,872

(注) H25 までは医学分館の時間外開館時間は夜間の無人開館時間を含むが、H26 から無人開館を停止しているため平日の夜間は 21 時で閉館している。

【参考】年間開館日数等（一館平均）（『平成 27 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	開館日数 (日)	平日の時間外開館 (時間)	土曜開館 (日)	休日開館 (日)
A (8 学部以上)	290	1,743	43	53
B (5~7 学部)	329	1,754	42	51
C (2~4 学部)	304	1,378	39	43
D (単科大学)	311	1,341	39	45

Ⅲ-1-7 入館者数

①本館

年 度	開館日数(日)	時間内(人)	時間外(人)	合 計(人)	1 日平均(人)
22	340	206,179	97,786	303,965	894
23	348	218,967	101,558	320,525	921
24	343	201,475	96,056	297,531	867
25	344	201,282	102,784	304,066	884
26	344	193,879	102,248	296,127	861
27	319	176,217	93,988	270,205	847

②医学分館

年 度	開館日数(日)	時間内(人)	時間外(人)	合 計(人)	1 日平均(人)
22	350	105,610	90,527	196,137	560
23	348	108,725	91,923	200,648	577
24	347	112,351	101,245	213,596	616
25	343	118,477	100,768	209,245	639
26	345	109,863	59,860	169,723	441
27	349	117,796	108,991	226,787	650

Ⅲ-1-8 貸出条件

①本館

種 類		対 象	期 間	冊 数
個人貸出	学内利用者	学部学生	2週間（雑誌は1週間）	図書(雑誌を含む)10冊
		大学院生	4週間（雑誌は1週間）	
		研究生・科目等履修生等	2週間（雑誌は1週間）	
		教職員・名誉教授	4週間（雑誌は1週間）	
		非常勤講師	4週間（雑誌は1週間）	
	学外利用者	2週間（雑誌は1週間）	図書(雑誌を含む)5冊	
研究室貸出		教員	1年間	当該予算で購入したもので必要とする冊数
特別貸出	休業期	学内利用者	休業期間終了日の1週間後まで	個人貸出と同条件
	卒論等	学部学生・大学院生	2週間	図書5冊
	実習	学部学生	実習期間内	図書5冊

②医学分館

種 類		対 象	期 間	冊 数
個人貸出	学内利用者	学生・教職員等	2週間	図書 5冊
			3日	小池文庫 3冊
			3日	雑誌 3冊
			3日	視聴覚資料 3点
	学外利用者	2週間	図書 3冊 (一般教育関係図書に限る)	
研究室貸出		教職員	1年間	当該予算で購入したもので必要とする冊数
特別貸出	休業期	学生等	休業期間終了日の翌日まで	図書 5冊

Ⅲ-1-9 館外貸出状況

①本館

年度	貸出者数(人)				貸出冊数(冊)			
	学生	教職員	一般	計	学生	教職員	一般	計
22	15,391	1,232	465	17,088	25,325	2,246	1,187	28,758
23	19,246	1,634	603	21,483	32,535	3,040	1,328	36,903
24	20,601	1,754	622	22,977	34,571	3,127	1,352	39,050
25	23,094	1,567	718	25,379	39,257	2,893	1,693	43,843
26	20,145	1,364	678	22,187	36,996	3,022	1,880	41,898
27	19,994	1,134	651	21,799	36,760	2,444	1,828	41,032

②医学分館

年度	貸出者数(人)				貸出冊数(冊)			
	学生	教職員	一般	計	学生	教職員	一般	計
22	7,269	1,742	18	9,029	10,916	3,002	45	13,963
23	7,640	1,673	25	9,338	11,611	2,936	44	14,591
24	7,342	1,433	26	8,801	11,525	2,340	42	13,907
25	7,271	1,045	19	8,335	11,415	1,794	34	13,243
26	7,633	1,176	28	8,837	10,690	2,920	49	13,659
27	10,134	1,851	39	12,024	11,683	3,240	167	15,090

【参考】館外貸出冊数（一館平均）（『平成 27 年度学術情報基盤実態調査結果報告』） 単位：冊

国立大学	教職員	学 生	学外者	計
A（8学部以上）	3,445	21,961	785	26,191
B（5～7学部）	2,540	24,512	1,566	28,618
C（2～4学部）	3,384	26,418	925	30,727
D（単科大学）	3,386	23,496	1,475	28,358

Ⅲ-1-10 オリエンテーション実績（本館）

年度	初級コース		中級コース	
	回数(回)	人数(人)	回数(回)	人数(人)
22	27	988	11	215
23	34	983	9	213
24	29	914	8	190
25	31	934	12	241
26	31	860	10	191
27	33	929	12	195

Ⅲ-1-11 図書館間相互貸借冊数

単位：冊

年度	本 館		医学分館	
	借 受	貸 出	借 受	貸 出
22	291	170	84	83
23	429	180	120	82
24	278	219	46	86
25	293	210	62	88
26	255	143	50	54
27	203	185	16	8

Ⅲ-1-12 図書館間の文献複写件数

単位：件

年度	本館		医学分館	
	依頼	受付	依頼	受付
22	1,772	559	2,232	1,598
23	1,625	624	1,888	1,929
24	1,242	549	1,516	1,783
25	965	352	1,381	1,734
26	1,078	331	1,519	1,435
27	916	384	1,413	1,048

【参考】相互協力件数（一館平均）

（『平成27年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	相互貸借		文献複写	
	借受	貸出	依頼	受付
A（8学部以上）	188	198	715	1,082
B（5～7学部）	209	228	1,247	1,102
C（2～4学部）	258	192	1,055	1,100
D（単科大学）	160	166	1,004	739

Ⅲ-1-13 図書館Web ページのアクセス数

年度	アクセス数（回）	デバイス別アクセス割合（%）	
		PC	mobile, tablet
24	114,927	92	8
25	121,141	83	17
26	118,974	76	24
27	122,175	71	29

2 研究支援

Ⅲ-2-1 電子ジャーナル導入状況

① 購入パッケージ

年 度	Elsevier Science Direct	Springer LINK	Wiley	Nature	LWW
22	○	○	○	○	○
23	○	○	○	○	○
24	○	○	○	○	○
25	○	○	○	○	○
26	○	○	○	○	○
27	○	○	○	○	○

②種類数

年度	種類数(種)
22	5,459
23	5,523
24	11,663
25	11,642
26	11,884
27	12,045

【参考】所蔵電子ジャーナル種類数（『平成 27 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学数	電子ジャーナル(種)	一大学平均(種)
A (8 学部以上)	19	382,048	20,108
B (5～7 学部)	16	151,325	9,458
C (2～4 学部)	26	194,240	7,471
D (単科大学)	25	155,240	6,210

Ⅲ-2-2 電子ジャーナルアクセス数

	Elsevier Science Direct	Springer LINK	Wiley	Nature	LWW
22	105,838	16,822	20,623	8,109	4,750
23	109,067	20,850	28,412	7,130	4,675
24	105,719	19,695	26,900	4,799	4,680
25	91,206	19,398	26,003	3,903	4,925
26	94,272	16,867	28,560	2,994	5,891
27	100,463	17,343	28,854	2,392	4,688

Ⅲ-2-3 文献等データベースサービス

データベース名及び利用件数(平成 27 年度)

国内		国外	
名称	利用数(件)	名称	利用数(件)
聞蔵 2 ビジュアル	781	SciFinder Academic	5,921
ヨミダス歴史館	892	Scopus	33,772
日経テレコン 21	285,606	JCR	1,366
BookPlus	16	Ovid	33,178
ジャパンナレッジ・プラス N	1,030	CINAHL	516
医中誌 Web	66,889	Clinical Evidence	80
CiNii *	84,676	UpToDate	2,247
日経 BP 記事検索サービス*	6,748	Academic Search Premier *	2,939
メディカルオンライン*	24,963		

日経テレコン 21 及び日経 BP 記事索引は本文記事等閲覧件数

* 本文では電子ジャーナル種として集計しているもの

Ⅲ-2-4 文献等データベースのトライアル及び説明会開催状況

年度	トライアル	説明会
22	Scopus	Scopus、Scifinder Academic
23	Scopus、メディカルオンライン	Scifinder Academic
24	西日本新聞	Scopus オンライン講習会 EBSCO host オンライン講習会 Scifinder Academic
25	ebrary	Science Direct オンライン講習会 Scopus オンライン講習会 EBSCO host オンライン講習会 Scifinder Academic
26	ICM(世界助産師連盟データベース)	Scopus、SciFinder Academic Scopus オンライン講習会 EBSCO host オンライン講習会
27	実施せず	SciFinder Academic Scopus オンライン講習会 EBSCO host オンライン講習会

【参考】図書館資料費 (『平成 27 年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

(平成 26 年度実績：一大学平均)

単位：千円

国立大学	大学数	図書	雑誌	電子ジャーナル	電子書籍	データベース	その他	計
A (8 学部以上)	19	152,686	131,467	358,301	13,789	55,747	10,741	722,731
B (5~7 学部)	16	30,170	28,944	106,993	1,318	17,963	2,006	187,393
C (2~4 学部)	26	28,718	25,479	71,078	2,172	13,328	1,509	142,285
D (単科大学)	25	13,254	9,327	26,924	710	6,348	3,537	60,100

Ⅲ-2-5 佐賀大学機関リポジトリ登録数及び閲覧数(平成 27 年度)

単位：件

コンテンツの種類	登録数		閲覧数	
	一次情報	二次情報	アクセス数	ダウンロード数
紀要論文	2,796	6,932	403,471	360,823
博士論文	253	1,750	104,460	93,154
雑誌論文 他	496	1,919	27,529	19,203
合 計	3,545	10,601	535,460	473,180

【参考】機関リポジトリコンテンツ数 (『平成 27 年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

(平成 26 年度実績：国立大学 B (5～7 学部) 平均)

単位：件

コンテンツの種類	一次情報	二次情報	アクセス数	ダウンロード数
学術雑誌論文	894	1,468		
学位論文	322	629		
紀要論文	3,538	1,449		
会議発表論文	84	173		
会議発表資料	67	5		
図書	77	35		
テクニカルレポート	21	0		
研究報告書	447	50		
一般雑誌記事	33	7		
プレプリント	1	0		
教材	7	6		
講義	0	0		
データ・データベース	3	0		
ソフトウェア	0	0		
その他	195	57		
計	5,688	3,879	370,307	421,872

3 社会貢献

Ⅲ-3-1 市民への貸出状況

年 度	本 館		医学分館	
	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)
22	465	1,187	18	45
23	603	1,328	25	44
24	622	1,352	26	42
25	718	1,693	19	34
26	678	1,880	28	49
27	651	1,828	39	167

Ⅲ-3-2 図書館月間 講演会

年度	演 題	講 師
22	シュガーロードと和菓子の現状	村岡由隆 ((株) 村岡総本舗 取締役企画室長)
23	現代陶芸の特質 (シンプル・シャープ・クリアー・ヴァイタリティ) — 日展女流陶芸家・寺崎康子の場合 —	吉永陽三 (元佐賀県立博物館・美術館副館長)
	有田・唐津焼と私の作品	田中右紀 (佐賀大学文化教育学部准教授)
24	徐福2200年ロマン—徐福の見た夢—	澤野 隆 (NPO法人佐賀県徐福会理事長)
	徐福ラボにおける食品機能性に関する研究—佐賀県産品の可能性—	永尾晃治 (佐賀大学農学部准教授)
25	ビブリオバトルの勧め — 社会で役立つ “プレゼン能力” を学ぼう —	中山功一 (佐賀大学工学系研究科准教授)
26	有田磁器の創始と発展 — 400年の歴史をたどる —	大橋康二 (元佐賀県立九州陶磁文化館館長)
27	日本電信の祖 石丸安世	多久島澄子 (幕末佐賀研究会会員)
	佐賀藩と電信機	長野 暹 (佐賀大学名誉教授)

Ⅲ-3-3 図書館月間展示会

年度	展示名	展示内容
22	シュガーロードと和菓子の現状	講演会「シュガーロードと和菓子の現状」に合わせ、村岡総本舗より和菓子の原料や写真等を借り受け展示した。
23	(展示会実施せず)	
24	徐福2200年ロマン—徐福の見た夢—	講演会「徐福2200年ロマン—徐福の見た夢—」に合わせ、徐福長寿館所蔵の資料・書籍を展示した。
25	ビブリオバトルお奨め本	ビブリオバトル首都決戦の大学予選会での発表本及び図書館開催のミニビブリオバトルのお薦め本などを展示した。
26	有田焼関連図書	講演会「有田磁器の創始と発展 — 400年の歴史をたどる —」に合わせて、書籍を展示した。
27	幕末佐賀藩の科学技術に関する資料	講演会「日本電信の祖 石丸安世」及び「佐賀藩と電信機」に合わせ、資料・書籍を展示した。

Ⅲ-3-4 附属図書館所蔵コレクション

	コレクション名	内 容
地域資料コレクション	小城鍋島文庫	佐賀鍋島の支藩、小城の鍋島家に伝えられた貴重な図書・文書で、当主鍋島直浩氏のご厚意と西島製作所原田龍平氏のご配慮により、昭和 35 年に寄贈され、昭和 38 年には小城町教育委員会から小城鍋島家旧蔵漢籍が寄贈されたもので、1 万点を超える国書、漢籍、歴史史料からなる。
	唐津藩庄屋文書	唐津藩の庄屋史料を中心に地方（じかた）文書を含む約 1,000 点の近世中・後期から明治にかけての庄屋史料である。
	深江文書	深江家に伝わる美濃派俳諧の資料で、深江汨央氏より平成 5 年に寄贈されたものであり、江戸中期から明治初期に佐賀で編まれた 49 点の俳書である。
	江藤新平関係文書	明治維新の政治家、江藤新平に関する資料をマイクロフィルム化したもので、佐賀県立図書館に所蔵されている 1,400 点余の資料と、江藤家に秘蔵されていた未公開資料 130 点を含んでいる。明治初期の政治・法制成立課程の研究や江藤研究の貴重な資料である。
	佐賀地方裁判所資料	佐賀地方裁判所より、平成 11 年に寄贈を受けたもので、明治初期から昭和初期に至るまでの裁判制度に関する資料であり、佐賀地方に限定されているとはいえ、明治初期から昭和初期までの地方における裁判の全体像を知ることができる貴重な資料である。
	市場直次郎コレクション	佐賀や北九州の近世文学・民俗学研究で知られた故市場直次郎氏が蒐集した、扇面・色紙・和書・掛軸等 1,900 点余のコレクションを 3 期にわたって購入した。コレクション中、近世の文人が描いた書画の扇面は 502 点にも及び、全国でも他に例がないものである。 (第 1 期分のみ文部科学省大型コレクション経費 平成 13 年度採択)
	洋学資料コレクション	我が国洋学発達史上、学術的価値のある資料である。 「和蘭字彙」、「草木花実写真図」、「西遊旅譚」、「蘭学逡」、「和蘭産物考」、「蘭学階梯」、「和蘭薬鏡」 (岡本基金-教育研究助成奨学寄附金)
	大内文庫	平成 15 年 9 月に亡くなられた、鹿児島大学名誉教授・文学博士、大内初夫氏が収集された俳諧書類で、江戸時代(元禄期)から明治中期にかけての俳諧書 298 点 445 冊、俳諧書複製本 23 点、軸物 18 点、器財(文台) 1 点を内容とする。 (岡本基金-教育研究助成奨学寄附金)
佐賀新聞DVD	明治 17 年の創刊号から平成 19 年までの記事を図書館内の専用パソコンで見ることができ、日付検索の機能を持ち、紙面全体や個別の記事を表示、印刷することができる。 (学長経費-予備費)	
研究用コレクション	東寺百合文書	東京大学史料編纂所が京都教王護国寺(通称東寺)旧蔵文書の影写本をマイクロフィルム化したもの。文書には、鎌倉・室町時代の東寺関係諸記録約 1,000 点を含み、東寺の寺院経営や寺院の荘園に関する寺院経済関係の記録が豊富である。(文部科学省大型コレクション経費 昭和 56 年度採択)
	バイルシュタイン有機化学全書	Beilsteins Handbuch der Organischen Chemie. 炭素化合物の物理的、化学的諸特性に関する百科事典 (文部科学省大型コレクション経費 昭和 62 年度採択)
	国立国会図書館所蔵明治期産業翻訳書集成	明治期のお雇い外国人官僚技術者、知識人の外国事情、学術研究書などの翻訳と報告をマイクロフィルム化したもの。万国博覧会編、農業編、工業編、産業史編に分かれている。 (文部科学省大型コレクション経費 平成元年度採択)
	1990 世界農林業センサス農業集落カード	農業の国勢調査ともいえるべき農林業センサスの調査結果の一つで、農村地域の最小単位である全国約 13 万 4 千の農業集落について調査結果を整理統合した資料。(文部科学省大型コレクション経費 平成元年度採択)

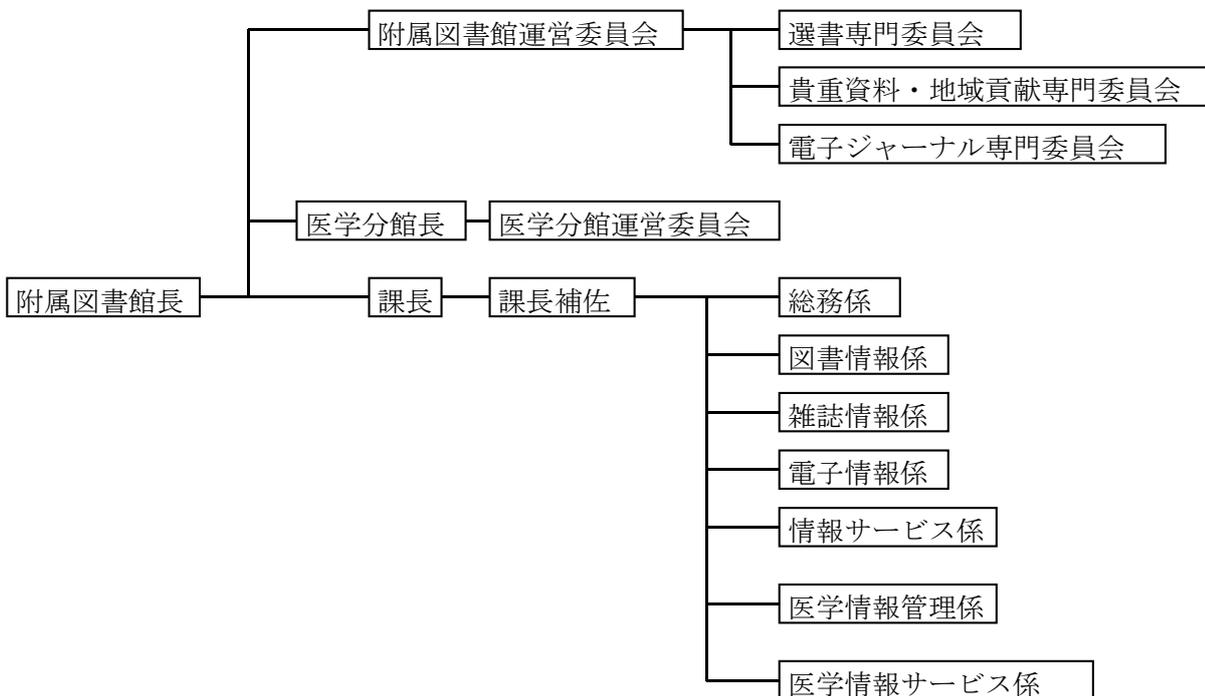
Ⅲ-3-5 貴重資料の利用

年度	展 示 名	展 示 内 容
22	小城の教育と地域社会	小城鍋島文庫の中から「毛詩正文」ほか11点
23	①小城の医学と地域医療 ②幕末期海軍の提督たち - 中牟田倉之助と高杉晋作 ③汽笛一声 鉄道はじまりものがたり ④噴火 地震 台風 病 史料に見る江戸時代の災害・災厄	①小城鍋島文庫の中から「元茂公御年譜」ほか10点 ②小城鍋島文庫の中から「上海談聞書」 ③小城鍋島文庫の中から「遠西奇器述」 ④小城鍋島文庫の中から「御状方日記」「日記目録」
24	①久米邦武と能楽展 ②書聖・中林梧竹不朽の書	①小城鍋島文庫の中から「景清」 ②小城鍋島文庫の中から「東坡居士詩集」
25	①鉄道を夢みた男たち ②小城藩と和歌-直能公自筆『岡花和歌』の里帰り- ③九州の蘭学 武雄の蘭学 ④市民の歴史研究事始め-自由民権カレッジ一期生の成果- ⑤儒家三代～古賀精里・穀堂・侗庵・謹一郎～	①小城鍋島文庫から「遠西奇器述」 ②小城鍋島文庫から「八重一重」ほか35点, 市場直次郎コレクションから「今泉蟹守和歌」 ③小城鍋島文庫から「遠西奇器述」 ④市場直次郎コレクションの画像データから「小池池旭 紅梅図」 ⑤小城鍋島文庫から「津島日記」
26	①図録「小城城下と牛津宿」出版 ②小城城下と牛津宿—小城藩政の展開と人びとの経済活動 ③実録『火城』伝～幕末佐賀のテクノクラート～ ④医学のあけぼのから先端医療まで	①小城鍋島文庫から「直能公御年譜6」ほか26点 ②小城鍋島文庫から「直能公御年譜6」ほか8点 ③小城鍋島文庫から「遠西奇器述」 ④小城鍋島文庫から「和漢三才図会」
27	①小城鍋島藩と島原の乱 ②小城祇園祭—千葉・鍋島から現代へ ③花鳥風月に遊ぶ—近世の絵師と歌人	①小城鍋島文庫から「元茂公御年譜」ほか6点 ②小城鍋島文庫から「小城祇園祭旧記」ほか12点, 市場直次郎コレクションから「和歌（今泉蟹守）」 ③市場直次郎コレクションから「扇面（与謝蕪村）」ほか30点

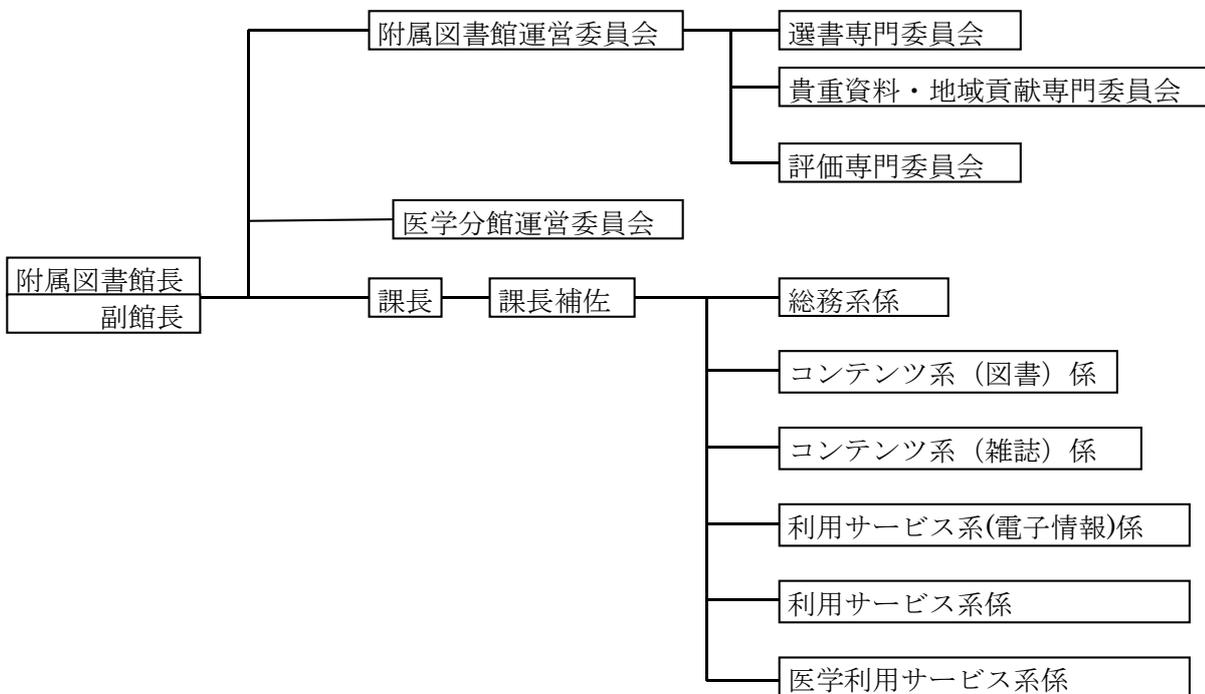
4 組織運営

Ⅲ-4-1 附属図書館組織・機構図

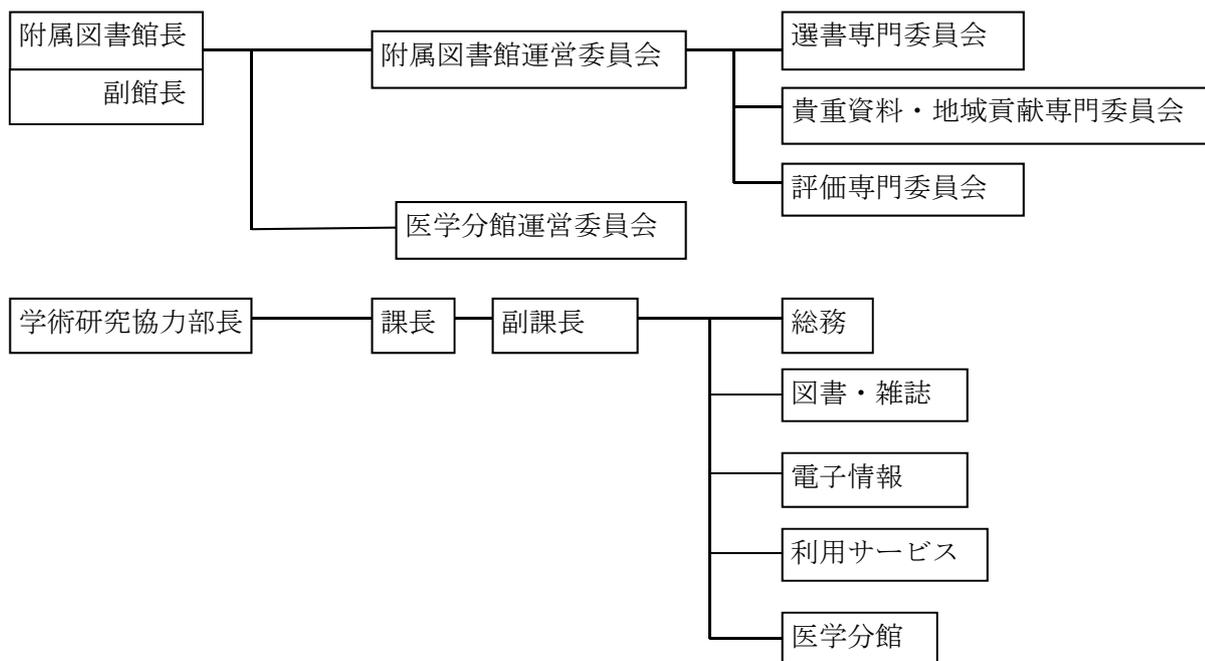
①平成 15 年 10 月～平成 18 年 6 月



②平成 18 年 11 月



③平成 25 年 4 月



Ⅲ-4-2 附属図書館職員数

5月1日現在（単位：人）

年度	本館			医学分館			合計		
	常勤	非常勤	計	常勤	非常勤	計	常勤	非常勤	計
22	10(6)	9(3)	19(9)	2(2)	6(4)	8(6)	12(8)	15(7)	27(15)
23	9(5)	9(3)	18(8)	2(2)	6(4)	8(6)	11(7)	15(7)	26(14)
24	10(7)	9(3)	19(10)	2(2)	5(3)	7(5)	12(9)	14(6)	26(15)
25	10(7)	9(3)	19(10)	2(2)	6(4)	8(6)	12(9)	15(7)	27(16)
26	10(7)	10(4)	20(11)	2(2)	5(3)	7(5)	12(9)	15(7)	27(16)
27	9(7)	10(5)	19(12)	2(2)	5(2)	7(4)	11(9)	15(7)	26(16)

(注) () 書は司書数で内数

【参考】図書館職員数（『平成 27 年度学術情報基盤実態調査結果報告』より）

単位：人

国立大学	大学数	総人数			一大学平均人員		
		専任	臨時	計	専任	臨時	計
A (8学部以上)	19	949	1,057	2,006	50	56	106
B (5～7学部)	16	206	343	549	13	21	34
C (2～4学部)	26	298	419	717	11	16	28
D (単科大学)	25	182	223	405	7	9	16

Ⅲ-4-3 職員研修状況

年 度	研 修 名	場 所	人数(人)
22	C S I 委託（コンテンツ系）事業報告交流会	東京都	1
	学術情報セミナー	福岡市	2
	I L L システム講習会	福岡市	1
	学術ポータル担当者研修	名古屋市	1
	目録システム講習会（図書コース）	熊本市	2
	著作権セミナー	熊本市	3
	九州地区国立大学法人等テーマ別研修	鹿児島市	1
	九州地区国立学校会計事務研修	鹿児島市	1
	学術情報リテラシー教育担当者研修	東京都	1
	九州地区医学図書館員セミナー	鹿児島市	1
	DRF/Share 地域ワークショップ	福岡市	1
	D R F 技術ワークショップ	熊本市	1
	公文書管理法制セミナー	東京都	1
	23	学術情報セミナー	福岡市
ILL システム講習会		福岡市	1
福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会目録講習会		北九州市	2
目録システム講習会（図書コース）		福岡市	1
機関リポジトリ新任担当者研修		広島市	1
九州地区国立大学法人等テーマ別研修		宮崎市	2
中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュパーソンセミナー		福岡市	1
九州地区医学図書館員セミナー		福岡市	1
大学図書館職員短期研修		東京都	1
佐賀大学フォローアップ研修		佐賀市	1
ILL システム講習会		福岡市	4
24	ILL システム講習会	福岡市	1
	目録システム地域講習会	福岡市	1
	大学図書館職員短期研修	京都市	1
	九州地区国立大学法人等テーマ別研修会	福岡市	2
	機関リポジトリ—新任担当者研修	岡山市	1
	北部地区研究会目録講習会	北九州市	1
	学術情報セミナー	福岡市	4
	エルゼビア 図書館セミナー	福岡市	2
	九州地区医学図書館員セミナー	宮崎市	1
	図書館総合展	横浜市	1
	25	学術情報セミナー	福岡市
学術情報ウェブサービス担当者研修		福岡市	1
Library Lover's キャンペーン ワーキング会議		福岡市	1
北部地区研究会目録講習会		北九州市	1
法人等係長研修		福岡市	1
文化庁著作権講習会		京都市	1
九州地区国立大学法人等テーマ別研修会		福岡市	2
国立大会計事務講習		佐賀市	1
佐賀大学係長研修		佐賀市	1
佐賀大学幹部職員(副課長)研修		佐賀市	1

	佐賀大学接遇・マナー研修	佐賀市	2
	佐賀大学中堅職員ステップアップ研修	佐賀市	2
26	目録システム地域講演会(雑誌コース)	山口市	2
	九州地区事務情報化推進要員スキルアップ研修	福岡市	1
	大学図書館職員研修会	福岡市	2
	九州地区医学図書館員セミナー	福岡市	1
	佐賀大学情報化要員養成研修(EXCEL)	佐賀市	4
	佐賀大学係長ステップアップ研修	佐賀市	2
	佐賀大学接遇・苦情クレーム対応研修	佐賀市	5
	27	大学図書館職員長期研修会	筑波市
学術情報セミナーIN 福岡	福岡市	1	
北部地区研究会目録講習会	北九州市	1	
中国・四国・九州地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナー	鹿児島市	1	
九州地区国立大学法人等テーマ別研修会	長崎市	1	
九州地区国立学校会計事務研修	熊本市	1	
九州地区医学図書館員セミナー	沖縄県中頭郡	1	
九州地区国立大学図書館協会館員館職員研修 WG	福岡市	1	
佐賀大学係長研修	佐賀市	1	
佐賀大学簿記研修	佐賀市	3	
佐賀大学評価者研修及び評価制度研修	佐賀市	1	
佐賀大学情報システム統一研修	佐賀市	2	

Ⅲ-4-4 図書館経費

①本館予算

単位：千円

年度	図書費	学長経費 (電子ジャーナル 整備費)	図書館維持費	計
22	29,222	68,177	41,755	139,154
23	27,000	68,339	41,726	137,065
24	25,790	74,726	40,661	141,177
25	20,582	75,000	40,857	136,439
26	20,379	75,000	37,247	132,626
27	20,177	75,000	36,516	131,693

(注 1) 平成 22 年度は電子ジャーナル整備費として学長経費 50,000 千円プラス 18,177 千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として 21,000 千円プラス 8,222 千円(その他補助金間接経費)を計上した。

(注 2) 平成 23 年度は電子ジャーナル整備費として学長経費 50,000 千円プラス 18,339 千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として 21,000 千円プラス 6,000 千円(その他補助金間接経費)を計上した。

(注 3) 平成 24 年度は電子ジャーナル整備費として学長経費 50,000 千円プラス 24,726 千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として 20,790 千円プラス 5,000 千円(その他補助金間接経費)を計上した。

(注 4) 平成 25 年度は電子ジャーナル整備費として学長経費 50,000 千円プラス 25,000 千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として 20,582 千円を計上した。

(注 5) 平成 26 年度は電子ジャーナル整備費として学長経費 50,000 千円プラス 25,000 千円

(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として 20,379 千円を計上した。

(注 6) 平成 27 年度は電子ジャーナル整備費として学長経費 50,000 千円プラス 25,000 千円
(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として 20,177 千円を計上した。

②本館決算

単位：千円

事 項		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
図 書 館 維持費	人件費	16,103	16,583	16,903	18,042	18,524	18,220
	光熱水費	5,811	6,404	6,409	6,851	7,126	5,932
	保守・役務費	9,523	10,529	8,142	6,959	8,435	6,563
	通信費	430	401	399	362	367	333
	備品・消耗品	8,548	6,057	7,422	8,683	5,820	2,675
小 計		40,415	39,974	39,275	40,897	40,272	33,723
図書費		97,399 学長経費等 68,177 千円 含む	95,340 学長経費等 68,340 千円 含む	100,709 学長経費等 74,726 千円 含む	99,173 学長経費等 78,591 千円 含む	106,044 学長経費等 85,665 千円 含む	104,319 学長経費等 84,217 千円 含む
計		137,814	135,314	139,984	140,070	146,316	138,042

③医学分館予算

単位：千円

年度	図書館維持費	図書購入費		計
		図書購入費	医学部経費	
22	19,246	7,497	32,111	58,854
23	19,277	6,300	34,151	59,728
24	19,273	6,237	33,743	59,253
25	16,274	7,374	34,041	57,689
26	16,178	7,301	30,168	53,647
27	15,378	7,226	33,987	56,591

*平成 22 年度は、医学分館図書購入費として間接経費 1,197 千円を計上

④医学分館決算

単位：千円

年度	図書館維持費	図書購入費	計
22	18,530	39,168	57,698
23	19,026	40,378	59,404
24	19,301	40,277	59,578
25	15,435	42,405	57,840
26	14,398	47,762	62,160
27	13,255	52,614	65,896

Ⅲ-4-5 ①図書館資料費 平成27年度

単位：千円

区分	本館	分館	合計
図書	44,370	12,542	56,921
雑誌	29,145	10,001	39,146
電子ジャーナル	89,122	16,587	105,709
電子書籍	648	896	1,544
データベース	16,143	264	16,407
その他	395	1,129	1,524
合計	179,823	41,419	221,242

【参考】図書館資料費（『平成27年度学術情報基盤実態調査結果報告』）
（平成26年度実績：一大学平均）

単位：千円

国立大学	大学数	図書	雑誌	電子ジャーナル	電子書籍	データベース	その他	計
A（8学部以上）	19	152,686	131,467	358,301	13,789	55,747	10,741	722,731
B（5～7学部）	16	30,170	28,944	106,993	1,318	17,963	2,006	187,393
C（2～4学部）	26	28,718	25,479	71,078	2,172	13,328	1,509	142,285
D（単科大学）	25	13,254	9,327	26,924	710	6,348	3,537	60,100

② 電子資料経費

	電子ジャーナル	電子書籍
年度	経費(千円)	経費(千円)
22	71,155	—
23	74,020	—
24	95,014	3,300
25	97,586	3,505
26	108,823	3,924
27	114,043	6,196

5 施設・設備

Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力（平成28年5月1日現在）

①面積

単位：㎡

	サービススペース					管理スペース				合計
	閲覧	視聴覚	情報端末	その他	計	書庫	事務	その他	計	
本館	750	104	25	1,167	2,046	1,059	411	2,596	4,066	6,112
分館	495	56	36	203	790	583	186	210	979	1,769
合計	1,245	160	61	1,370	2,836	1,642	597	2,806	5,045	7,881

②閲覧座席数

単位：席

	1階	2階	3階	合計
本館	275	97	255	627
分館	88	104	—	192
合計	363	201	255	819

③書架収容力

	棚板延長(㎡)	収容可能冊数(冊)	書架配架冊数(冊)	収蔵率(%)
本館	16,680	463,333	443,738	96
分館	3,889	108,028	103,706	96
合計	20,369	565,806	533,118	95

【参考】面積・閲覧座席数（平成27年度学術情報基盤実態調査）

国立大学	大学数	総床面積(㎡)	1大学床面積(㎡)	閲覧座席数(席)	1大学座席数(席)
A (8学部以上)	19	538,912	28,364	39,767	2,093
B ((5~7学部)	16	150,236	9,390	13,236	827
C (2~4学部)	26	191,575	7,368	16,556	637
D (単科大学)	25	103,579	4,143	8,641	346

【参考】書架収容力（平成27年度学術情報基盤実態調査）

国立大学	大学数	棚板延長(m)	1大学棚板延長(m)	収容可能冊数(冊)	1大学当収納可能冊数(冊)
A (8学部以上)	19	2,059,382	108,389	57,205,052	3,010,792
B ((5~7学部)	16	492,322	30,770	13,675,615	854,726
C (2~4学部)	26	633,051	24,348	17,584,746	676,336
D (単科大学)	25	374,069	14,963	10,390,806	415,632

Ⅲ-5-2 図書館利用者用端末台数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

単位：台

	据置き	貸出し	計
本館	75	4	79
医学分館	62	2	64
計	124	6	130

【参考】図書館利用者用端末台数（『平成 27 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学数	据置き		貸出し		合 計	
		台数(台)	1 大学平均 (台)	台数(台)	1 大学平均(台)	台数(台)	1 大学平均(台)
A (8 学部以上)	19	3,334	175	444	23	3,778	199
B (5～7 学部)	16	1,365	85	230	14	1,595	100
C (2～4 学部)	26	1,885	73	440	17	2,325	89
D (単科大学)	25	715	29	184	7	899	36

Ⅲ-5-3 アクティブ・ラーニング・スペース

（平成 28 年 5 月 1 日現在）

	面積(m ²)	運営体制(人)			
		職員(図書館)	職員(図書館以外)	教員	学生スタッフ
本館	750	3	0	0	0
医学分館	36	2	0	0	0
計	786	5	0	0	0

【参考】アクティブ・ラーニング・スペースについて（『平成 27 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学数	設置大学		設置館		面積(m ²)	
		大学数	設置率 (%)	館数	設置率 (%)	合計	1 大学平均
A (8 学部以上)	19	19	100	41	11.0	21,477	1,130
B (5～7 学部)	16	14	87.5	20	36.8	9,469	592
C (2～4 学部)	26	23	88.5	32	48.9	10,398	400
D (単科大学)	25	18	72.0	19	60.0	4,642	186

国立大学	大学数	設置大学数	運営体制(人)					
			職員 (図書館)	職員 (図書館 以外)	教員	学生 スタッフ	1 大学平均 職員 (図書館)	1 大学平均 左記以外
A (8 学部以上)	19	19	213	15	21	200	11	12
B (5～7 学部)	16	14	78	0	12	45	6	4
C (2～4 学部)	26	23	158	12	28	111	7	7
D (単科大学)	25	18	70	2	4	16	4	1

Ⅲ-5-4 グループ学習室の設備

①本館

	座席数	設備
グループ学習室 1	16席(予備3席)	プロジェクター、スクリーン、大型ディスプレイ ホワイトボード
グループ学習室 2	12席(予備8席)	
グループ学習室 3	24席	
グループ学習室 4	12席	大型テレビ (ディスプレイとして使用可) BD/DVD/VHS プレイヤー、ホワイトボード
グループ学習室 5	42席	大型ディスプレイ、ホワイトボード

②医学分館

	座席数	設備
ビデオスライド室 1	12席	プロジェクター、プロジェクター用スクリーン、テレビモニター 電気顕微鏡、DVD・VHS プレイヤー、ホワイトボード
ビデオスライド室 2	4席	テレビモニター、電気顕微鏡、DVD・VHS プレイヤー ホワイトボード

Ⅲ-5-5 各室使用状況 (本館)

年度	グループ学習室 (回)	閲覧個室 (人)
22	1,072	193
23	1,420	289
24	1,951	334
25	2,214	613
26	2,112	611
27	1,751	225

Ⅲ-5-6 会議室利用状況(本館)

年度	回数 (回)	時間 (時間)
22	112	534
23	126	510
24	96	387
25	129	668
26	138	630
27	134	516